



寄付登録プロジェクト一覧

2020年10月

寄付は社会を変える第一歩

あなたの想いを信頼できるNPOにつなぎます



公益財団法人
パブリックリソース財団

目次

国内

災害・復興支援	2
こども	4
医療・福祉	10
環境	12
おとな・しごと	16
ダイバーシティ	18
文化・スポーツ	20

国外

災害	22
紛争・難民	23
こども	25
医療と福祉	27
安全な水とトイレ	28
環境	29
人権	30

国内



災害・復興支援

こども

医療・福祉

環境

おとな・しごと

ダイバーシティ

文化・スポーツ

地元住人が被災地の未来をつむぐための多目的スペースを！

ネットワークオレンジ

学びあから行動へ！東日本大震災の被災地である気仙沼で復興の拠点となる多目的スペースをつくります。被災者が再び明日に向かって歩みだすためには、「心のケア」そして「学び」「行動すること」が大切です。ネットワークオレンジでは同じ被災者として震災以降、心のケアを目的としたコンサートを開催したり、起業・事業再建のための支援として講座などの学びの機会をつくり、そこから行動へとつなげ1万5千人以上の人たちを支援してきました。



詳細はこちらから！



東北地方太平洋沖地震アレルギー患者支援活動
アトピッズ地球の子ネットワーク

大規模災害では、多くの被災者が食べ物に不自由した状態で日々を過ごされています。そして食物アレルギーがある人は、食物がやっと届いたとしても、その食物にアレルゲンが含まれていた、何も食べることができません。食べものが医薬品と同じように取り扱われ、必要な人に必ず届くように、多くの人の協力で、バトンを渡すようにして食物を届けなければなりません。ぜひ、ご寄付・カンパへのご協力をお願いいたします。



詳細はこちらから！



東日本大震災復興支援：障がい者や高齢者などにこれからも寄り添う支援を

難民を助ける会 (AAR Japan)

AAR Japan [難民を助ける会] では震災2日後より、食品や衛生用品を始めとする支援物資の配付と、特に障がい者施設の被害状況の調査を開始。現在は若手県、宮城県、福島県で福祉事業所の復興支援と、被災された方々の孤立を防ぐための地域交流活動など継続しています。障がいのある方々が被災前の生活を取り戻し、より生き生きと働いたり暮らしたりできるよう、福祉事業所の商品開発などを行っています。



詳細はこちらから！



復興みやぎ：仮設住宅サポートセンター内で活動再開

輝くなかまチャレンジド

石巻市虹田地区の仮設住宅サポートセンター内を借りて、事務所兼施設として再開しました。職員も被災し、施設も使えなかったため休止していましたが、利用者の身体的・精神的負担は計り知れないと、再開を決意しました。皆さんの寄付がありまると、送迎車両を購入したり、施設に必要な什器、備品をそろえることができます。土地や中古物件の情報収集を行っていくとともに、施設建築に当たり、助成や寄付などの支援を必要としています。



詳細はこちらから！



災害被災地の障害者福祉事業所支援プロジェクト

トゥギャザー

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨、北海道胆振東部地震、2019年房総半島台風で被災した障害者福祉事業所の支援を積極的に実施しています。私たちは、普段から実施している障害者福祉事業所で働く障がい者の工賃向上事業の中に災害被災地復興支援としてのプロジェクトを立ち上げて支援活動を続けています。



詳細はこちらから！



CODE海外災害援助市民センター 基盤強化プロジェクト

CODE 海外災害援助市民センター

CODEは、震災から立ち上がってきたKOBEの知見と教訓を活かし、現地の文化や生活様式を尊重して被災地の復興を支援しています。これまで、耐震住宅の建設や、その技術を伝えるためのワークショップ、生計向上の再建サポート、防災教育などを行ってきました。災害救援においては、「最後の一人」の人権を回復するまで直接的・間接的にかかわることが求められます。そこでは、被災地の「内発性を育む」ことが不可欠です。



詳細はこちらから！



尾道坂の町再生プロジェクト

尾道空き家再生プロジェクト

尾道は古からの港町として栄え、海と山に囲まれた坂の町として古い町並みが広がる独特の景観を形成していますが、車が入らない不便さや住民の高齢化、過疎化により空き家が増加し、古い港町としての原風景が失われつつあります。尾道の景観を守るために、空き家を再生し移住してもらうことを中心に、環境、建築、アート、観光の5つの観点から尾道らしいまちづくりに、本当に必要な昔ながらのコミュニティの再生に取組んでいます。



詳細はこちらから！



【東日本大震災被災者支援】東北の水産業を元気にするプロジェクト

日本国際民間協力会 (NICCO)

漁師から買い取った魚を生きたまま陸上のいけすに一時保管し、顧客に直接出荷することで漁師の収入向上につなげる事業を実施しています。さらに、全国の有名シェフらと協力した加工食品の開発・製造、地元雇用の創出、料理教室や子ども向け体験学習の開催、地元の人々や観光客を呼び込むイベントの開催など多機能な役割を果たし、コミュニティを元気にしていきたいと願っています。皆さんのご支援をよろしくお願い致します。



詳細はこちらから！



東日本大震災復興支援活動

AMDア (AMD A)

"AMD大楯健康サポートセンター" "東日本復興グルメF1大会" "仙台市震災ホームレス支援" など地震や洪水等の災害発生後、被災者に医療等の支援を行うだけでなく、復興支援といった人道支援活動を行っています。



詳細はこちらから！



福島の親子とともに「ぼかぼかプロジェクト」

国際環境NGO FoE Japan

東電福島第一原発事故はいまだ収束していないにもかかわらず、原発事故の「見えない化」が進んでいます。復興のかけ声のもと、原発事故の被害について、語りづらい空気が生まれています。福島の親子を対象に「福島ぼかぼかプロジェクト」という週末保養プログラムを行っています。子どもたちが野外でのびのびと遊び、父母が語り合い、この中で、原発事故被害の共有や伝承が行われてきています。



詳細はこちらから！



復興みやぎ：「倒壊の危険性高い」デイサービス施設の移転新築プロジェクト

みやぎ身体障害者サポートクラブ

宮城県栗原市一迫で、主に交通事故や脳血管疾患による後遺症などで中途障害者となった人々に対し、自立と社会参加の支援を行っています。震災後、介護保険デイサービス施設の耐震診断を行った結果、倒壊の可能性が高いと判断されました。現地ではまだ余震も多く心配な日々が続いており、利用者がある中で大きな地震が来ると大変危険です。小さい規模ながら、地域の一員として、地域の支援を受けながら頑張っています。



詳細はこちらから！



東日本大震災で被災した子どもに学校外教育の機会を

チャンス・フォー・チルドレン

東日本大震災によって、多くの家庭が深刻な経済被害を受けました。被災地では多くの子どもたちが学校外教育の機会を失っています。震災によって失われた学びの機会を保障すること。そして被災地の復興を担う「ひと」を育てること。これこそが、被災地で最も重要な課題です。東日本大震災で被災した子どもたちに習い事等の学校外教育サービスで利用できるバウチャーを一人当たり15万円〜30万円分提供し、失われた学校外教育の機会を保障します。



詳細はこちらから！



東日本大震災及び原発事故、新型コロナウイルス流行で学習が中断された子どもたちに向けた学習支援活動

日本教育復興連盟

新型コロナウイルス流行による休校で、学習の遅れ・学習習慣の乱れを心配する声が多数聞かれています。南相馬市の子どもたちは、東日本大震災・原発事故、2019年の台風19号などによっても学習を中断されました。さらに、長期避難によってコミュニティ構成員が変化し地域で子どもたちを見合うことが難しくなっているという状況もあります。累積した不利を少しでも解消するために、感染症対策と両立した子どもたちへの学習支援活動を実施します。



詳細はこちらから！



被災地の子どもたちに、音楽・芸能を届けよう！

日本芸能実演家団体協議会

東日本大震災から9年余が経過したのに、復興ができたという声は聞こえてきません。建物の再建はできていても、心の復興は時間の経過とともにできるものではなく、復興住宅に移った後、近隣の関係が構築できず、喪失感を深めている方もいらっしゃいます。本プロジェクトでは、子どもたちが笑顔になれるような音楽・芸能を届けることで、大人たちにも元気になるってもらい、地域コミュニティのつながりを強める機会を提供したいと思っています。



詳細はこちらから！



宮城県山元町で行う海岸防災林再生プロジェクト

国際環境NGO FoE Japan

東日本大震災の津波により、宮城県山元町は住宅がほぼ全壊、堤防も倒壊し、農地を海からの強風や塩害から守ってきた海岸の松林が流失しました。住民の生活を守ってきた海岸林を、この地域に関わる様々な人々の力を集め、いち早く再生させることが、将来的にこの地域を災害から守るために必要です。そのため、植林を専門とするNPOと協力の下、地方自治体と植栽地利用の協定を結び、潮風に強いクマツトと広葉樹を育てる活動を行っています。



詳細はこちらから！



若林区の農業と農村の再生と地域づくり

ReRoots

地元野菜を販売し若林区の魅力を発信することで、地域外のお客さんが若林区の魅力に触れる機会を作り、将来的に新規就農者となる人材育成を進め、ReRootsからも独自に新規就農者を輩出し、地域の農家と一緒に地域課題について腹を割って話ができる環境づくりを行っています。高齢化率が33%にも及ぶ若林区六郷地域において、農村コミュニティとして存続させることができるかを地元目線から考えていきます。



詳細はこちらから！



子育てや病気治療中の女性の活躍推進プロジェクト

石巻復興支援ネットワーク

石巻復興支援ネットワークは東日本大震災以降、石巻圏域の女性活躍の支援や起業家支援、東日本大震災の経験からの学びを国内外に届ける活動を続けてきました。私たちは、女性たちが自らの人生の選択ができ、自分らしく生きるが叶えられる社会を目指しています。女性たちがそれぞれの求める居場所をもち、しあわせをかみしめながら生きていくために必要な力をつける、学びの機会や地域社会につながり、地域課題を自らの力で解決する機会を創ります。



詳細はこちらから！



復興ふくしま：うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト

ビーンズふくしま

震災や原発事故の影響で長期避難生活をし、仮設住宅で暮らす福島の子どもの達は、住み慣れた地域を離れ、転校を余儀なくされ、友達関係もバラバラになっています。"子どもの遊びや繋がり"のための場や企画づくり"などを通じて、福島県内の東北・県中地域の仮設・借上住宅生活の子ども達へ"遊びや学びの機会の提供"をすることで恒常的な支援を行うとともに、父母・地域住民も参画した「子どもを軸にしたコミュニティの再生」の仕組みづくりを行います。



詳細はこちらから！



廃校活用を考える「かれいざわアートICHIBA」(マルシェ)

あおりNPOサポートセンター

地域の方々と交流しながら作品を制作するアーティストインレジデンスや、校庭の物置を改装したコミュニティ・カフェ等、かれいざわの周知と賑わい創りに挑戦してきましたが、その運営には多額の費用がかかります。そこで、校舎やカフェを再開することは難しくとも、これまで関わってくださった方たちと共に、かつて校舎を賑わせた「かれいざわアートICHIBA」(マルシェ)を開催し、廃校活用を考え発信していく場を作りたいと思います。



詳細はこちらから！



たらね放射能測定プロジェクト

いわき放射能市民測定室たらね

2011年3月11日の福島第一原発事故災害は、健康に有害な放射能を大量放出し、人々が居住する地域を広範囲に汚染しました。たらねでは、放射能の測定を行い、生きるために必要な食品や飲料水の測定結果を公開しています。安全を確かめて生活するための情報の公開は、子どもたちや地域の人々の被曝防護につながり健康を守ることに繋がります。子どもたちの健康と未来のために私たちの活動を応援してください。



詳細はこちらから！



東日本大震災：「共に生きる」ファンド終了後の取組み

ジャパン・プラットフォーム

JPFでは緊急時から被災地域の地元団体と協働する形で助成事業等を実施するとともに、地元団体が地域で息長く活動を展開していくことを願い、事業終了後も地元団地あ組織基盤・人材育成を行ってきました。同時に、1団体だけでは対応しにくい地域課題に対しても、被災地域内外の支援団体が集まり情報交換する場や、それらの団体が関係性を育み課題等について協議・対応できる地域ネットワークづくりをサポートしてきました。



詳細はこちらから！



次の津波から命を守るため、避難のラインを『桜』で繋ごう！

桜ライン311

私たちが目指す未来は、自然災害で亡くなる命を一人でも減らすことです。災害の教訓を後世に伝えること自体は昔から取り組まれてきたことでもあります。しかし多くの場合日常に組み込まれたものではないため、どうしても人々の記憶から消えていってしまいます。そこでより多くの人が、「覚えていたい」と思えるもので伝えたいと考えています。そこで津波の最大到達地点に「桜」を植え、植え育てる過程に日本全国の方に参加してもらおうと考えています。



詳細はこちらから！



【九州豪雨(令和2年7月豪雨)被災者支] 特に支援が届きづらい方々を支える

難民を助ける会 (AAR Japan)

熊本県と鹿児島県では数十年に一度と言われる記録的な豪雨に襲われました。その翌日から、AAR Japan【難民を助ける会】は、緊急支援を開始。被災地域での炊き出し、障がい者施設への支援を行ってきました。また、災害時に支援が届きにくい障がい者福祉団体・施設へ支援活動を行っています。このほかにも、地域に必要な活動を行う障がい者支援施設の様々な被害状況も確認しました。状況やニーズを把握し支援に向けて調整してまいります。



詳細はこちらから！



すべての子どもに愛ある家庭を

SOS子どもの村JAPAN

子どもたちにとって、もうひとつの家族となる里親家庭の普及と、さまざまな事情を抱える子どもと家族の支援を通じて、どの子ども、子ども時代を損なわれることなく、安心して成長してける社会をめざしています。2010年に日本型の家庭養育（里親養育）のモデルを広めるため、日本で唯一の「子どもの村」を開始しました。皆さんも、私たちと一緒に里親と里子をサポートする一人になっていただけませんか？応援どうぞよろしく願いいたします。



詳細はこちらから！



「原発事故から7年、福島の障がい児に輝ける場所を」

ふうよう士2100

福島で暮らす発達障害の子どもたちが、家庭と学校だけでなく、安心して過ごせる場所「放課後等デイサービスがっこ」「えるーむ」を提供しています。特に東日本大震災・原発事故のあと、環境の変化に戸惑い、強いストレスを感じる親子が増えています。障がい児ひとりひとりが輝くことができる、放課後の居場所づくりにご協力ください。



詳細はこちらから！



東海地域にアレルギーを持つ親子を支えるサロンを

アレルギー支援ネットワーク

誰かに悩みを聞いて欲しい！アレルギーの正しい知識を得たい！問題解決のために皆で協力したい！様々な思いを抱く、アレルギーを持つ患者・家族が参加できる地域のサロンづくり（交流会広場と「会」の設立）とその活動支援を行います。自治体・医療機関・防災ボランティア・専門職などと協働し、アレルギーの勉強会や料理講座等を開催するなど、地域で支え合う仕組みづくりをします。



詳細はこちらから！



不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助けて！根絶のための研究にご支援をお願いします。

日本IDDMネットワーク

1型糖尿病研究基金（2005年に設立）により、根治に向けた研究に取り組む研究者に対して研究費助成を行っています。パイオ人工膵島移植、遺伝子治療、ブタ膵島による移植治療法の実用化、移植細胞の量産技術の開発、予防ワクチンの開発、針を刺す必要のない血糖値センサーの開発、iPS細胞による再生医療など72件3億8800万円（2020年4月30日現在）の研究費助成を行っています。根治の道のりはまだまだこれからです。



詳細はこちらから！



目で聴き・知る喜び、私たちが聴覚障害児を支援します！

長野サマライズ・センター

「パソコン文字通訳」のシステム開発や、パソコン要約筆記者の育成を全国に先駆けて行っています。「パソコン文字通訳」とは、トレーニングを受けたパソコン文字通訳者が音声聞きながらパソコンで即座に入力を行い、パソコン画面やスクリーン、モバイル端末などに文字を表示させる支援サービスです。必要な支援を受けながら自立して生きていける社会が実現すれば、聞こえないまま我慢していた聴覚障がい児の人生が180度変わります。



詳細はこちらから！



復興いわて：まごころサンタ基金

遠野まごころネット

東日本大震災で被災した子どもたちの中には、経済的な理由から進学をあきらめなければならない受験生がいます。遠野まごころネットの「まごころサンタ基金」は、岩手県受験生に返還不要の奨学金を給付して、被災受験生の進学を応援しています。どうか、皆様の温かいご支援をよろしく願い致します。



詳細はこちらから！



“児童養護施設で暮らす子どもたちの声”を届ける

CAPセンター・JAPAN

これまでの子どもへの暴力防止プログラム提供活動で出会ってきた児童養護施設の子どもの声や施設職員の声、活動の中から見えてきたことをまとめ、動画やブックレットとして配信・発行し、届けるキャンペーンを行うことで、施設や施設で暮らす子どもたちへの理解を深げ、子どもたちが安心して社会とつながってける環境づくりをめざします。子どもたちの通う学校に関わる教職員・保護者にとどまらず、市民社会全体へ届けるキャンペーンを展開します。



詳細はこちらから！



福島の若者たちの挑戦したいを応援するプロジェクト

ビーンズふくしま

次世代を担う若者の「挑戦したい」を応援してあげませんか。孤立感を感じたり、生きにくさを抱えていたり、様々な悩みを抱えた若者にとって、主体的に関わり続けられる活動の場が地域に少ないのが現状です。彼らのワクワク感を育む居場所、そして地域の中で挑戦したいを形にできるハンドメイドカフェを共に支えてください！



詳細はこちらから！



1人でも多くの不登校の子どもに居場所を！

越谷らご

越谷らごが運営するフリースクール「りんごの木」は、会費納入が困難な家庭に対して減免制度を設けています。その制度を支えるのが「フリースクールりんごの木子どもサポート基金」で、広く皆様から寄付を募り原資とします。この制度を利用して経済的なハンデがある子どもたちが安心して通い、豊かな人生を歩んでほしいと考えています。



詳細はこちらから！



虐待等により戻らぬ家庭を持たない子どもたちの自立を支えます

子どもシェルターモモ

子どもシェルターモモでは「子どもシェルター」や「自立援助ホーム」を退所した子どもたちが社会で孤立しないよう、いつでも気軽に立ち寄れる場を設けています。アットホームな雰囲気の中で、スタッフやボランティアが彼らの悩みを聴いて力になったり、就労や社会生活に向けた学習支援や就職活動支援を行ったりしています。虐待などにより心に傷を負った子どもたちが自尊感情を回復し、社会の中で孤立せず、経済的・精神的に自立することが目標です。



詳細はこちらから！



児童養護施設の子どもの“あなたは大切”と伝え続ける

CAPセンター・JAPAN

児童養護施設において子どもと施設職員に暴力防止プログラムの提供を行うことで、子どもたちが自分が持つ力を体感し、おとな、人、社会を信頼しなすきかけになっていくものと考えています。そのことが、他者との安心な関係を築き、社会の一員として現在（いま）、そして将来にわたってその力を発揮できる基盤になっていくCAP（キャップ）プログラムの社会的養護の現場でのプログラム提供がめざすのはその基盤づくりのお手伝いです。



詳細はこちらから！



ステップハウス「ぴあ・かもみーる」応援プロジェクト

子どもセンター「バオ」

私たちは、子どもがシェルターを出た後も、いきなり社会に出るのではなく、もう少しだけ安心安全な場所で生きていくパワーを養ったり生活習慣を身につける場所、ステップハウス「ぴあ・かもみーる」を開業しました。しかし、就労を前提としていないため、原則子どもからは費用を徴収しないなど、経済的には苦しい中で運営しています。シェルターを出た子どもたちに、社会へ自立・自律の力を養う生活の場ステップハウスの運営にご協力ください。



詳細はこちらから！



エイジス (ASIAS) 学校へのアーティスト派遣プロジェクト

芸術家と子どもたち

「あらゆる子どもたちにアーティストと出会う機会を提供したい」そんな思いから、子どもたちの日常生活の場である学校の授業へアーティストを派遣するエイジス事業が始まりました。私たちが展開するのはコミュニケーションやプロセスを重視するワークショップ型授業です。子どもたち一人ひとりによって違う感覚や表現と向き合うことは、子どもたちが自分だけの表現に気づいたり、自分とは違う友達を認め合うことにつながります。



詳細はこちらから！



親子に『灯台』を！～虐待再発防止プログラム～

チャイルド・リソース・センター

被虐待児童の割合は年々増加していますが、虐待を受けることなく親と再び一緒に暮らせることを望む子どもは多く、親もまた同様の思いを抱えています。CRCでは、親子関係再構築の支援を行うべく、「CRC親子プログラム ふあり」を開発し、提供して2020年で14年目になります。この支援を通じ、子どもと家族の健全な成長発達、虐待の再発防止を目指し、子どもが生まれてきてよかった、この世は安全な場であると感じてもらっています。



詳細はこちらから！



母子家庭を元気にするおしゃべり会事業in関西

しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西

母子家庭の家族が安心して集まり、たわいなおしゃべりができる場を提供します。孤立した家族にとって、自分の境遇を理解してくれる人に話を聞いてもらうことや、同じ苦労をする者同士で語り合うこと、励まし合うことだけでも、とても元気になるものです。さらに、母子家庭が利用可能な、行政等による支援制度の情報をその場で提供します。母子家庭の家族の笑顔を増やすためにご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



読み書きに困難を示す子ども向け学習教材の普及プロジェクト

リヴォルヴ学校教育研究所

学校になじみずにいる子ども達のための『ライズ学園』を運営しているほか、不登校の背景にある学習障害などの問題に関する公開講座も開催しています。また、つまづきがちな子ども達への支援方法の研究に努めています。子どもたちのかたわらでその学びを見つめ続けてきたスタッフならではの工夫と、最新の研究成果に基づいた特許技術等が盛り込まれた教材は、全国の幼稚園、小中学校、高校等でも採用され、好評をいただいています。



詳細はこちらから！



病気の子どもたちに「遊び」を届けるボランティア支援

病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア

こどもにとって遊びは命、権利です。けれども病院内のこどもは家族や友達から遠ざけられ、遊びに制限がかかります。小児病棟では病棟保育士などの配置が一部で進められていますが、全国でも配置は2,3割で、いたとしても一人程度。これでは、十分に子どもに向き合う余裕はありません。私たちは重い病気であってもひとりひとりの子どもに向き合い「遊ぶこと」を通して生きる喜びを共にします。そして付き添うご家族にその間、休息を提供します。



詳細はこちらから！



ろう児が手話で楽しく笑顔で学べる環境を！

バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター

日本の約100校のろう学校のうち、ろう児がわかる日本手話で授業を行っているところは当NPOが設立した「明確学園」1校のみです。ろう児が自然に身に着けることができる「日本手話」で教育を受けた子供たちは、聞こえる子供と同じような豊かな成長をすることができます。そこで、皆様からご賛同いただいたご寄附は、ろう児が100%理解するための教材教具の開発、手話環境の充実、活動内容の情報発信に活用させていただきます。



詳細はこちらから！



なんだ。家があるじゃないか！

東京シューレ

子どもの成長は、学校だけではありません。親が教師がわりに教科書を教えるとか、家で通信教材をやらせるのではなく、子どもの興味・関心・ペース・感じ方などを大切にしながら、家庭が責任をもって育てていくというやり方が「ホームエデュケーション」で、そのかたちは、いろいろあるのです。ホームエデュケーション家庭をつなぐ出会いの機会(サロン)を開催できます。



詳細はこちらから！



同じ会員の子があつまって集行します。(仮称にて)

君の音ってどんな音？オーケストラ教室 シンフォニー

響愛学園

支援学級に通う子ども達の中には自分の気持ちをうまく伝えることが出来ない子どもや、物事に対する理解度もゆっくりな子どもがいます。支援学級の子どもが普通級クラスに一人で参加したときに、そこにサポートする人材がいなくて孤立してしまうなど、なかなかうまくいかないことがあります。響愛学園では、「みんな“すてき”」を合言葉に、障害を持った子ども達と健常の子ども達が互いを知り、一緒に学び合い成長していく場を創りたいと考えています。



詳細はこちらから！



シェルターに避難した子どもの生活及び自立を支援します

子どもセンター「バオ」

親からの虐待などで行き場を失った子どもたちが、一人でも多く健やかに成長できるようをお貸し下さい。愛知県を中心に「今晚泊まる所さえない」子どもたちに安心できる居場所を提供するシェルターを運営しています。民家をリフォームしたシェルターでは、家庭的な雰囲気の中で、子どもたちが傷ついた心を少しでも癒してくれるような環境を作る努力をしています。



詳細はこちらから！



ブリッジフォースマイル 基盤強化プロジェクト

ブリッジフォースマイル

児童養護施設で生活する子どもたちの多くは、虐待を受けたり、養育を放棄されたり、親の死別や離婚を経験したりするなど、家庭の問題で心に傷を負っています。ブリッジフォースマイルでは「巣立ちプロジェクト」「出張セミナー」「アトモプロジェクト」等により子どもたちがどんな環境で生まれ育っても、夢と希望を持って笑顔で暮らせる社会を目指します。



詳細はこちらから！



児童養護施設を巣立った子どもたちの自立支援

ブリッジフォースマイル

児童養護施設を退所した後の子どもたちが、仲間と交流する機会を設ける「アトモプロジェクト」にご支援をお願いします。児童養護施設を退所した子どもたちが、自らの人生を主体的に選択し、自立した生活が送れるよう、見守りサポートするものです。経済的にも精神的にも不安定になりがち子どもたちに、ネットワークや気軽に相談できる環境を提供し、トラブル時には迅速に的確な対応をとることで、社会からドロップアウトすることを予防します。



詳細はこちらから！



ディスレクシアの啓発と支援のためのワークショップ基金

エッジ

ディスレクシアは知的に問題がなく、聴覚・視覚は正常なのに、読み書きに関して特長ある学習困難を示す症状です。ワークショップに参加した子どもたちは、自分で考え、行動でき、また学校や職場がディスレクシアを理解し、まわりが変わることで、ディスレクシアの人たちが本来持っている力を発揮することができます。ディスレクシアの啓発、支援、ネットワーク作りのためのワークショップを開催するために、ご協力をお願いいたします。



詳細はこちらから！



東京シューレ 基盤強化プロジェクト

東京シューレ

東京シューレは、フリースクールの運営を中心に、学校に行っていない子どもとその親を支援するさまざまな活動を通して、子どもの権利を拡大し、子ども主体の教育のあり方を創造・発展させ、多様な学びと成長の在り方が認められる社会をめざしています。運営には、公費支援がなく、約8割を保護者が負担し、約2割を寄付やその他の活動で支えています。安定した財源が、子どもたちの居場所と学びを守り支えます。ご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



ストップ！子どもの虐待

子どもの虐待防止センター

社会福祉法人子どもの虐待防止センターでは、子どもの虐待防止のために様々な活動を行っています。虐待は子どもを傷つけるだけでなく、親もまたどこにも相談できずに苦しんでいることも多いのです。子どもの虐待防止に取り組む民間団体として、更に活動を発展するために最も必要とする運営資金へのご支援をお願いします。



詳細はこちらから！



ロボカップジュニアジャパン・サポーターズクラブ

ロボカップ日本委員会

ロボカップを中心とした各地域のロボットものづくり教育活動をネットワークし、人材や情報の相互交流を目指しています。子どもたちのロボット製作の指導にあたるボランティアインストラクターの育成やロボット製作の可能な拠点作りを全国に展開すべく活動を行っています。実地のネットワークを運営するには多大なコストがかかります。今は限られた視点で展開していますが、いつかはきっとあなたの街へ。私たちのサポーターとしてご支援ください。



詳細はこちらから！



福岡の塾に行けない子どもたちに学ぶ場を！

いなかねっど

塾に通いたくても通えない、そんな状況にある子供たちに学びの場を提供できれば「貧困の連鎖」を食い止めることができるのではないかと。そんな思いから始まったのが無料の学習会「マナビバ」でした。新型コロナウイルスが蔓延し、気軽に外出するのも難しい世の中。新たなマナビバとして「マナビバオンライン」と「Ask!! マナビバ」を始めました。こういった新たな取り組みをすることで環境や状況が変化しても子供たちに寄り添っていきま



詳細はこちらから！



わくわく放課後プロジェクト

ひいあぶら

障がいのある子もいない子も一緒になって活動できる運動プログラムを実施していきます。近年、発達障がいなどにより、生きにくさを抱えている子どもが増えていると言われています。私たちは、彼らが安心して暮らせるよう、子ども達の早期療育や居場所づくりに取り組んでいます。個別に必要な学習や遊び、療育訓練、またすべての子ども達のためにスポーツやレクリエーション活動など、より多く社会参加する機会を提供しています。



詳細はこちらから！



居場所型学習支援

キッズドア

居場所型学習支援では、食の支援も行っています。家庭の事情で満足に食事をとれない子どももいるため、食事があることで休まずに通ってもらえるようになります。スタッフやボランティアと食事をしながら、さまざまな人とコミュニケーションをとることで、安心できる場所、落ち着いて勉強に集中ができる環境づくりを心がけています。



詳細はこちらから！



「発達障がい」や不登校・ひきこもりの若者の学習と自立支援

楠の木学園

「発達障がい」、不登校、ひきこもり、若年のうつ病や統合失調症など、子どもたちの器質やメンタルな面への理解、サポートの必要性が年々高まっています。しかし、そうした子どもへの関わりを持てる専門性と経験の豊かな人材の確保は、とても困難なのが実情です。子どもたちが家庭や地域で安定して、平穏に、そして健やかに成長を遂げられるよう、皆さまのご支援をお願いいたします。



詳細はこちらから！



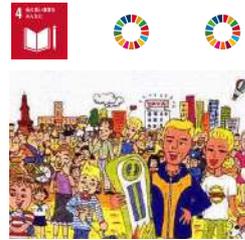
liby (リビー) フレンドシップ募金

東京YMCA「liby (リビー) 」

子どもたちが「ありのまま」にいられる場所。それがliby。学校に行かない子どもたち、学校が終わってからの学童保育として利用する子どもたちが、いろいろな理由で参加しています。中には、家庭の状況により、子どもと周りの関係との判断でlibyに参加している子どもたちもいます。libyはそんな子どもたちが参加できるように、参加費の減免をして、減免分を補助できればと思います。ご協力ください。



詳細はこちらから！



入院中の子どもたちが、こどもらしく輝く瞬間を届けたい

日本クリニックラウン協会

入院中の子どもたちのところへ、赤い鼻をつけたクリニックラウン（臨床道教師）を派遣し、こどもの成長や発達をサポートしています。2005年から2019年3月末までの14年間で全国33病院、3485回、約10万人の子どもたちに「こども時間」を届けることができました。みなさまからの寄付は、入院中の子どもたちが、こどもらしく過ごせる「こども時間」につながります。そして、入院中の子どもたちの一人ひとりの笑顔につながっていきます。



詳細はこちらから！



貧困と孤立の中で、トラウマと逆境を乗り越え、自らを構築する能力（レジリエンス）を育てる居場所づくり

さいたまユースサポートネット

貧困、虐待、いじめ、不登校、高校中退、ひきこもり、障がい、そしてヤングケアラーを社会はどのように発見し、支えるか。不安や孤独感を解消するためには、地域の中に自分を認め、受け止めてくれる居場所があるという安心感とそれを支える訪問活動が何よりも必要です。このプロジェクトを通じて、孤立し弱化する可能性の大きい世帯の小学生年代から40代までの子ども若者を支えるシステム・居場所を地域の人々と連携してつくります。



詳細はこちらから！



児童虐待防止のための子育て支援・虐待相談事業

子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)

CAPNAは今年25周年を迎える児童虐待防止のための市民団体です。社会背景や時代背景により、子育ての悩みや育児に対する不安も様々です。私たちは幼少期（過去）に虐待の経験をされた大人の声にも寄り添っています。寄付によって電話相談事業・メール相談事業の通信代とシステム管理やシェルター内の備品（食料やオムツ、日用品）が賄えます。



詳細はこちらから！



無料英語学習会[English drive]

キッズドア

中学生と高校生の多くが苦手意識を持っている英語。[English Drive]ではどんな中学生、高校生でも英語が楽しくなる学習会です。英語に苦手意識を持っている生徒も、英語が大好きな生徒も誰でも参加できます。多様なバックグラウンドをもつ大人や外国人たちがボランティアとして、アクティビティやイベントなどを交えた独自プログラムで英語を教えることで、子どもたちの将来の可能性を広げることを目指しています。



詳細はこちらから！



無料高校受験対策講座「キッズドア学園中等部」

キッズドア

中学3年生を対象に高校合格を目指して勉強をする場所です。ほったらかしにしている苦手科目を教えてもらったり、周りには話づらい将来の話を相談したり高校受験に向けて様々なサポートを受けることができます。無料で学習の機会を提供することにより、高校受験合格に向けて進め、将来の自立につながる進路や自分が望む生活ができるチャンスを子どもたちに与える一助となることで、「貧困の連鎖」を断ち切ることに繋がります。



詳細はこちらから！



子ども食堂～子どもたちにひとつでも多くの居場所を～

ビーンズふくしま

私たちが2018年より運営する“子ども食堂 よしだキッチン”は子どもたちが自分らしく安心でき、ここにいていいんだと思える安全基地でありたいと思生まれた居場所です。これから、子どもたちにとってでも多くの居場所が地域に生まれることを願って、本プロジェクトを立ち上げました。子ども食堂というプラットフォームを通じて、様々な背景を抱えた子どもたちのことを人と人が繋がりあって支えていく。そんな地域を作っていきたいです。



詳細はこちらから！



発達専門スタッフが子どもと遊びながら相談に乗ります

発達わんぱく会

世の中には子育て情報が溢れていて、便利な反面保護者の不安も多種多様になりがちです。こころとことばの教室こっこでは、普段療育を行っている専門スタッフによる、無料の遊び場開放を致します。子育てに悩みを抱える保護者が相談できる場所をつくり、適切な助言や情報提供をするとともに、気になる子どもを見つけて早期の療育開始につなげます。



詳細はこちらから！



地域みらい留学～都道府県の枠を越えて地域の学校に入学する世界を当たり前～

地域・教育魅力化プラットフォーム

地域で充実した学びを得ることで、地域社会の未来に意志ある若者たちが育ち、地域の未来を変え、その熱が日本社会全体に広がっていく姿を信じて、私たちは「教育魅力化」の事業に取り組んでいます。地域みらい留学は、都道府県の枠を越えて、地域の学校に入学し、充実した高校3年間をおくる留学支援の事業です。マイプロジェクト学習は社会課題の先進地である地域の本物の課題に対して高校生が地域内外の大人とも協働し主体的に挑戦する事業です。



詳細はこちらから！



大学受験対策&高校生学習支援無料講座 [キッズドア学園高等部]

キッズドア

日本では子どもの7人に1人が相対的貧困の状態にあり、さまざまな困難から、高校や大学への進学をあきらめる子どもがたくさんいます。望む進学ができない子どもたちが、自分の子どもの世代へも貧困の継承をしてしまう「貧困の連鎖」が生じています。無料で学習の機会を提供することで、将来の自立につながる進路や自分が望む生活ができるチャンスを子どもたちに与える一助となり、「貧困の連鎖」を断ち切る活動を行っています。



詳細はこちらから！



2021年春赴任予定者のための赴任前研修 応援プロジェクト！

TeachForJapan

エントリーの段階で教員免許の有無に関わらず教育現場の課題解決に「挑む人材(新卒・既卒)」へのマインドセットとスキルセットを支援します。「挑む人材」は生涯かけて教育の変革に寄与していく方々です。受益者である彼らと自治体・学校・児童生徒へは無償で事業展開をいたします。参加する教師候補生は、教師としての志を確固たるものにし、その先にいる子どもたちへの影響、学校教育の改革を確かなものにしていきます。



詳細はこちらから！



みらいの森 サマーキャンプ

みらいの森

NPOみらいの森は、夏休みにキャンプを行います。児童養護施設に暮らす子どもたちが「生涯の糧」となる体験をし、社会に出てからも自分に自信を持ち、仲間や周囲の人たちと助け合いながら、様々な問題を克服し、活躍できるようになることを、このプロジェクトの長期的な成果として期待しています。力を合わせ、この前例なき困難を乗り越えていきながら、子どもたちに笑顔でキャンプにてお会いできる日のための準備を進めて参ります。



詳細はこちらから！



「みんなで創るミライの学校」出版 応援プロジェクト

コクレオの森

日本は驚異的な経済発展を遂げ物質的に豊かな社会を実現しました。しかしその一方、社会に様々な歪みも発生させ子どもたちの受験競争や、学力偏重に伴うストレスや不安を生む原因ともなりました。いじめや不登校の増加、さらには10代の若者の自殺も深刻な問題となっています。従来の学校システムの枠だけではなく、子どもたちの個性を尊重し、自発的に学ぶ意欲に基づいた「子どもたちの自立的な成長を支援する教育」を行おうと考えています。



詳細はこちらから！



どんな環境にいる子どもにも、サンタさんとの特別な思い出を！

チャリティーサンタ

私たちは「サンタを待っている子ども」と「サンタになる大人」をつなげる活動を行っています。活動を届けてきた中で、「クリスマスの思い出がない」という家庭があることに気がつきました。さらに独自調査により、経済的に厳しいひとり親家庭や、時間的・精神的に余裕のない家庭にそういう子どもが多いことがわかってきました。どんな環境におかれていても、一人でも多くの子どもたちにサンタクロースとの「特別な思い出」を届けたいと考えています。



詳細はこちらから！



おたまじゃくしプロジェクト

ピアサポートネットしゅば

このプロジェクトは、児童養護施設などの社会的養護を終えて自活する若者など生きづらさを抱える本人が、自らの生活や精神面での安定を目指して、自らが取り組もうとする事柄が、資金の確保が難しく、滞った状態から希望につながるように、資金の提供を行い、その人なりの生き方をサポートします。



詳細はこちらから！



子連れ出勤「ママプラス」

彩結び

いろむすびCafeのある東京都北区では、未就学児の母親の約4割が未就労であり、一日中子どもと2人きりで過ごしています。母親の中には、「子育てをする上で、気軽に相談できる人がいない」と悩んでいる人たちが多く、母親たちの孤立化が心配されています。そのため「10歳から100歳まで輝ける場所」を目指し、多世代交流のコミュニティカフェにて、子連れ出勤を通して、未就学児を持つママを支援したいと考えています。



詳細はこちらから！



子どもたちが健やかに育つための学びの機会創り

ビーンズふくしま

子どもたちの成長には様々な経験をする事が非常に重要だと考えています。しかし、貧困家庭の場合、経済的な課題によって学習や様々な体験活動の機会が限定されてしまう側面があり、子どもたちが本来持っている考える力や創造力などといった、「生きる力」が育くまれにくい状況があります。貧困家庭の子どもに対して、抱えている課題や要望等を基に必要とされる家庭訪問による個別支援と家庭外における集団での講座支援を行いたいと考えています。



詳細はこちらから！



みんなで創る ミライの学校！！

コクレオの森

もしも、自分で学校を創れるとしたら、どんな学校を創りたいですか？学校とは、そのために自分は何者で、何か好きで、何がやりたいのかを考えて、チャレンジする場所です。自分も人も大切にできる人は、自分が周りの人に役立つと思うようになり、自分ができることはジブンゴトとして引き受けられる人になっていきます。そんな学校が、NPO法人コクレオの森が運営する「箕面こどもの森学園」。ご寄付・応援よろしくお祈りします。



詳細はこちらから！



エイジアス (ASIAS) 児童養護施設へのアーティスト派遣プロジェクト

芸術家と子どもたち

近年児童養護施設では、被虐待経験や何らかの障害のある入所児童の割合が増加しています。虐待を受けた子どもたちは、情緒や行動面、自己認知や性格形成など非常に広範囲にわたる深刻なダメージを受けており、障害のある子どもにとっても、一人ひとりの特性に合ったより専門的なケアが求められています。当団体では、既存の制度では補えない、個々人を尊重し、且つ継続可能な自立支援活動を通して、虐待の連鎖等社会的課題の根本的な解決を目指します。



詳細はこちらから！



難聴や聞こえに不自由のある学生の高校での支援実現を目指して

長野サマライズ・センター

聴覚障がいを持つ子どもたちの学ぶ環境が十分保障されておらず、聞こえないまま我慢している現状を変えるために、長野サマライズ・センターの「遠隔/パソコン文字通訳」で実際に授業の情報を届け、安心して授業に参加してもらおうと同時に、継続した支援の実現のために、教育現場へ理解を求め働きかけを行いたいと思います。



詳細はこちらから！



子どもたちの心、そして命をまもる

チャイルドラインあいち

子どもたちが自分をかけがえのないたった一つの大切な命であり、妨害を受けることなく生きてよい存在だとは思えない社会になっています。そこで、子どものかける電話を開設し、子どもの声を聴き、かけてくれた子どもの声を無駄にすることのないよう、報告書や講師派遣等の形で社会に発信します。電話の受け手養成講座を開講し、電話の受け手ボランティアを育成や一般の方を対象とした公開講座を開催し、子どもの味方を増やしたいと考えています。



詳細はこちらから！



学習支援ナレッジ展開

Learning for All

私たちは創業以来、様々な困難をかかえる子どもたちを対象に学習支援・居場所支援を実施してまいりました。また、特にリソースの少ない地方の子ども支援団体様のサポートを行なっています。より多くの子ども支援団体に適切なサポートをご提供することで、その先にいる困難を抱えた子どもたちに「つながり」「学び」「育み」の環境を届けられるよう、今後ますますのノウハウの展開を実施していきます。



詳細はこちらから！



入院中の子どもたちにワクワクする時間を届けよう

スマイリングホスピタルジャパン

美術、音楽、マジック等のプロのアーティストボランティアとアシスタントボランティアが小児病棟の病棟、病室を訪問し、クラフトワークショップ、マジック、音楽会などを聞く活動を行っています。子どもたちが活力や自信を取り戻せるように、作る、手品を覚える、一緒に歌う、などの参加型の活動を大事にしています。ワクワクする経験をたくさんすることで、闘病への活力が増し、治療力が高まると私たちは信じています。



詳細はこちらから！



子どもたちと考える虐待予防～学校授業参加の取組み

児童虐待防止協会

増加傾向の止まない児童虐待の解決のために、私たちは、虐待を受けている子どもの支援と共に、子どもたち全般への予防教育が必要だと考えています。私たちは、学校授業への参加を柱とした、新たな子ども支援のプロジェクトに取り組んでいくことに致しました。主体的に考える参加型授業を実施します。関係者の方々の意見交流や共に学ぶ場を積極的に作り、虐待に悩む子どもたちを当団体の電話相談に繋ぐ活動も行う予定です。



詳細はこちらから！



【ひとり親家庭の子どものフードバンク】グッドごはん

グッドネーバース・ジャパン

「日本の子どもの7人に1人が貧困」これはニュースでも大きく報じられてきました。この問題は、ひとり親家庭ではより深刻で、2人に1人が相対的貧困といわれています。グッドネーバース・ジャパンは2017年に国内の子どもの貧困対策への取り組みとして「グッドごはん」というフードバンク事業を開始し、ひとり親家庭に定期的に食品の無料配布を行うことで、子どもの健やかな成長を支えています。



詳細はこちらから！



子ども支援の生態系モデル

Learning for All

どんな困難な状況にある子どもでも、自分自身を認め、人からも認められる環境や、その子に適切な学習機会があれば、前を向き、自分の人生を切り拓く力を持つことができるようになりますと確信しています。LFAでは一つの地域内に「居場所支援拠点」と「学習支援拠点」を複数設置し、子どもたちの生活圏に必要なすべての支援・機会がそろった「子ども支援の生態系」モデルを目指しています。そして、その支援モデルを全国へ展開するべく活動しています。



詳細はこちらから！



「今日帰る場所がない」という子どもたちに居場所を！

子どもセンターーぼると

今、日本では年間2万人以上の子どもたちが行き場を失っています。家庭から見捨てられ、住むところもお金もなく、これから先どこでどうやって生活していけばよいのかわからないという子どもたちには、まず、安全な場所が必要です。私たちは、「今日帰る場所がない」という15歳～19歳の女の子に、安心して過ごせる居場所を提供するために、「子どもシェルターーぼると」を開設し支援を行っています。



詳細はこちらから！



難病の子どもとその家族全員を永続的に支援！

難病の子どもとその家族へ夢を

寂しい思いを我慢している兄弟、姉妹。家族それぞれがさまざまな思いを抱えながら日々難病と向き合っています。だからこそ、家族皆が心から笑いあえる時間と社会から孤立しない機会、場所を大切に考えています。難病を患う子どもとその家族を、非日常の体験に招待したり、休息できる場（施設）を沖縄恩納村で運営するなど、難病を患う子どもとその家族が社会の人々と交流し、想いを発信できる場をつくっていきます。



詳細はこちらから！



子どもセンター「パオ」寺子屋プロジェクト！

子どもセンター「パオ」

虐待などで深く心傷つき、自分なんかいない方がいい、世の中には楽しいことなどないと思ってしまっている子どもたちが、ヨガ、ボイストレーニング、ギター教室など趣味や遊びを通じて「楽しむこと」を感じることができる場所、少しでも生きる力（パワー）を持ってもらう場所・・・子どもセンターパオ版「寺子屋」を設立・運営していくプロジェクトです。



詳細はこちらから！



ささえつづきたい～虐待を防ぐために～

チャイルド・リソース・センター



詳細はこちらから！



虐待の再発防止を目指す時、息の長い取り組みが必要です。経済的な困窮など生活におけるストレス、特に孤立は虐待発生の大きなリスク要因です。CRCでは、虐待再発防止支援プログラムに参加した親とその子どもに対し、ずっとずっと応援しているよというメッセージを伝えて寄り添い、家族の孤立を防ぐことを目的に年に2回「ほっと・いっぶくの会」を設けています。



障害児・病児の遠隔授業支援の仕組みづくり事業

長野サマライズ・センター

入院中の子どもたちが学んだり、自宅の家族と交流できる遠隔交流システムを開発している「NPO法人e-MADO病気のこどもの総合ケアネット」と協力して、遠隔授業の普及をはかります。そのため、医療機関や当事者家族などのニーズ調査を行い、それぞれのニーズに適した遠隔診療システムなどを調査し、学校の協力も得ながら遠隔での体験授業の実施をサポートしようと考えています。



詳細はこちらから！



MOTAの運営費にご協力を！

めぐはうす 地域生活支援センターMOTA

めぐはうすでは、精神障害者の地域における生活の自立支援をめざして13年間、グループホーム、共同作業所を運営してきました。障害者自身がスタッフとして活動する「ピアスタッフ」体制をつくり、障害者が積極的に運営に参加できるシステムを構築中です。仲間同士のピアサポートやセルフヘルプ活動が活発になっており、ピア電話相談も開始しました。



詳細はこちらから！



障がい者が「まちで普通に暮らす」ために

トゥギャザー

一般企業で雇用され、経済的自立をしている障がい者はごくひとりにぎりで大部分のいわゆる「障害者福祉事業所」で働く方々は、利用料を支払いつつ平均1〜2万円の工賃で過ごしています。これでは到底自立した生活は望めません。そのため、私たちは“学ぶ支援”“働く支援”“暮らす支援”を通して解決に導いていこうと考えています。



詳細はこちらから！



緊急救援活動用医療キット調達にご協力を

アムダ (AMDA)

AMDAの緊急救援活動は自然災害等発生後、なるべく早く早く活動できるように心がけています。その活動は医療救援活動や生活物資配布を実施する、活動期間1回が約1週間という短期的な活動です。1回の緊急救援活動に持参する医薬品・外科医療セットなどの救援医療キットは約60万円。AMDAでは次の活動を想定して常に準備しています。私たちの緊急救援活動をより迅速なものにしたいためにも、救援医療キットの準備金に皆さまのご支援をください。



詳細はこちらから！



E-BeC公式ウェブサイトのスマホ化対応に伴うリニューアル

エンパワリングプレストキャンサー

2012年のサイト開設以来「乳房再建手術」に関する幅広い情報を提供する、充実したかつ信頼性の高いウェブサイトとして利用されています。現在はパソコン閲覧を前提とした設計になっていますが、利用者の利便性を高めるためサイトのコンテンツを維持しつつ、スマホ環境に適した操作性やデザインを備えたスマホ用サイトの構築とそれに伴うウェブサイトのリニューアルをします。



詳細はこちらから！



がん患者向けイベント (クリスマス会等)

5years

命と向き合うがん患者に必要なものは「希望」です。しかし、死のリスクのある病を患うと希望を見出すことが難しく、過酷な状況に置かれるため社会復帰が遅れがちになります。がん患者が「希望」を見出すには、がんの後、元気に社会に戻った人たちの情報が最も有効です。NPO法人5yearsは、がん患者たちの交流サイトを運営しています。ネットで繋がったがん経験者達で「がん患者向けイベント」を開催しています。



詳細はこちらから！



声の花束

日本フィランソビー協会

「声の花束」は、雑誌・本などの活字情報を人の声で録音して、インターネットで配信する今までにないサイトです。視覚障害、高齢や脳障害など、活字メディアによる情報を手に入れない人にとって、「こんな情報がほしかった」と好評です。将来的には情報料での経済的自立を目指しますが、まだ運用費用が足りません。このサービスを維持・発展させて、一人でも多くの方がほしい情報を手に入れられるよう、運用維持費にご協力ください。



詳細はこちらから！



発達障害児・者と、その家族、先生方をサポートします

リソースセンターone

リソースセンターoneは、設立から約20年間、日本の実情にあわせた支援を行ってきました。私たちは、これからも、日本の実情にあわせて、当事者にとって本当に必要な支援を行うことができるように、これまで培った実践的な専門性を生かし、支援の質の向上に取り組んでいきたいと考えています。



詳細はこちらから！



うつ病になった人の職場復帰・再就職を支援します

こころ塾

うつ病になった人が職場復帰や再就職を目指す場合、休養と投薬治療で治っただけではうつ病の再発のリスクが残ります。再発の主な原因は、会社と自宅休養との間のストレスのレベルに大きな差があるためです。私たちは、そのギャップを埋めるためのリハビリプログラムを提供して再発リスクを減らすことで、職場復帰や再就職を支援しています。



詳細はこちらから！



貧困世帯に食料を、乳幼児にミルクとオムツを届けたい

認定NPO法人フードバンク山梨

フードバンク山梨は、様々な理由で貧困に陥った困窮世帯へ、企業や家庭から寄贈いただいた食品を食料支援として無償で送っています。支援世帯の中には、幼い子どもを育てている貧困世帯や母子世帯が多数あります。困窮世帯や子ども・乳幼児に食料やミルク・オムツを定期的に送る事によって、子どもの健全な成長を支援していきたいと思えます。あなたの支援で子どもの未来が変わります。



詳細はこちらから！



聞こえに不自由のあるお子さんに学ぶ喜びを

長野サマライズ・センター

難聴の学生に対するサービスは、現在大学など高等教育では徐々に整いつつありますが、初等・中等教育課程では、まだまだ手つかずの状態と言えます。私たちは携帯電話やインターネット回線により音声を取得し、パソコンで素早く文字を入力し、支援者の手持ちのタブレットやスマートフォンなどに文字情報を表示する「遠隔パソコン文字通訳」のシステムを大学や通信会社と共に開発しました。今後ともサービスの継続をしたいと考えています。



詳細はこちらから！



手話による医療通訳育成・普及プロジェクト

インフォメーションギャップバスター

聴覚障害者にとって命にも関わる手話通訳については、専門的な実践がほとんど見られません。手話通訳者がいる病院の数も少ないです。そこで、聴覚障害者が安心して医療機関を受診できるようにするために、医療関係者とのコミュニケーションを支援する、手話による医療通訳の育成と普及に取り組みます。プロジェクト内容として、年1回の医療通訳シンポジウム開催、医療用語手話翻訳動画 (DVD) 作成プロジェクト、議員への陳情などを予定しています。



詳細はこちらから！



不治の病”1型糖尿病”根絶のための活動へのご支援をお願いいたします。

日本DDMネットワーク

私達日本DDMネットワークは、救う・「つなぐ」・「解決する」の3つの約束を掲げ、1型糖尿病患者をはじめとしたインスリン補充が必要な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現することを目指しています。寄付により、1型糖尿病の根絶に向けて取り組んでいる研究者の方々の寄付によって支援することにより、この病に苦しむ子どもたち、これから発症する子どもたちを救うことができます。



詳細はこちらから！



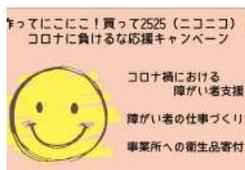
作ってにこにこ！買って2525（ニコニコ）！コロナに負けるな！応援キャンペーン

トゥギャザー

コロナ禍で、イベントや販売機会を失った障害者福祉事業所。作っても売り先がないので、働くことが出来ない障がい者。支援の場である福祉事業所で、感染を最大限に防止しながら働くスタッフ。当法人が福祉事業所に実施したアンケートの結果をもとにキャンペーンを始めました。ご寄付いただくことで、参加事業所に衛生品等をお届けすることが出来ます。



詳細はこちらから！



手話通訳者へコロナ感染を防止するフェイスシールドを届けよう！

インフォメーションギャップバスター

通訳者を助けたい！これは、現場で聴覚障害者のために通訳を行うも、防護手段不足でコロナ感染のリスクにさらされている通訳者へフェイスシールドを届けるための活動です。集まったお金は、フェイスシールド製作のために使います。製作したフェイスシールドは、「東京手話通訳等派遣センター」と「神奈川県聴覚障害者福祉センター」などにお届けします。



詳細はこちらから！



点字図書製作のための原本購入費のご協力を

日本点字図書館

視覚障害者にとって「読書」は健常者以上に大切な楽しみとなっています。当館におきましても、書店より既存の図書を購入し、それを元に点訳、朗読を行い、点字・録音図書を製作しています。年間800タイトル近くの点字・録音図書を製作しており、その図書の購入費用の負担が大きな問題となっております。ひとりでも多くの視覚障害者の方が読書の機会を得られるよう、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



「聞き書き甲子園」プロジェクト

共存の森ネットワーク

全国の高校生が、全国12地域に暮らす『森・川・海の名人』を訪ね、名手・名人の知恵や生活技術、ものの考え方や生き方を「聞き書き」という手法を用いて記録し、社会一般に広くアピールする「聞き書き甲子園」です。「森・川・海の名人」への「聞き書き」を通して、地域の自然と人との関わりをより広い視野で捉え、持続可能な社会づくりを担う高校生の育成を目指します。



詳細はこちらから！



サンゴ礁再生に向けた赤土流出防止プロジェクト

石西礁湖サンゴ礁基金

農地からの赤土流出がサンゴの生育環境の悪化を招いており、特にサトウキビの「夏植え」栽培は、冬季の刈り取りから夏季の植え付けまでの間、畑が裸地状態となるため、赤土流出の大きな原因となっています。このプロジェクトでは、株出し管理機の作業受託料を当基金が負担することにより、「夏植え」から「株出し」への農法転換を推進する計画です。ご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



クマと人が共存するために：トラブル防止プロジェクト

日本クマネットワーク (JBN)

クマの生活を守り、かつクマが人間の生活を脅かさないようにする仕組みが機能していれば、クマを殺す数を減らすことができます。我々の団体では、全国的な規模で、行政や地域によるクマの保護管理施策を側面から支援することで、クマと人のトラブルを減らし、共存することを目指しています。ご寄付が10万円集まるごとに、1地域分のプロジェクトが実現します。



詳細はこちらから！



竹林再生のための竹テントプロジェクト

トージバ

多くの地域で竹テントを作り、竹林再生に繋げてもらうためにその作り方をオープンソース化するとともに、竹テントを“自らつくる”ことができ、ヒトに伝えることができる“人材”を育てる「竹テントづくりワークショップ」を行っています。皆様の寄付によって、多くの方々に竹テントづくりを学んでいただき、各地の竹でテントを作り使ってもらうことによって、竹林が再生し、地域の個性に則したヒトと竹との新たな関係が根付いていくことを期待します。



詳細はこちらから！



余った食品を預かって、必要とする人達に届け、命を繋ぐ食べ物として大切に活用します。

フードバンク関西

フードバンク関西は、企業や個人の皆様から、包装破損、納期限遅れ、規格外等の理由で商品としては扱えない、使いきれない、食べ物としては安全で美味しい食品を寄付していただき、それらの食品を、支援を必要とする人達を支える福祉団体、一時的に困窮した市民、貧困の中で子育てを頑張るひとり親世帯に無償分配するフードバンク活動をしています。



詳細はこちらから！



社会課題の解決に取り組む「市民科学者」の育成・支援

高木仁三郎市民科学基金

「地球市民」の観点に立ちながら、問題の現場で自ら学び、専門性を高め、問題の解明に主体的に関与していく若い世代の方々に応援したいと考え、2020年度から、「若手研究支援枠」を設けることにしました。この枠では、現時点で、調査研究計画や成果発表の見通しが確立していないとしても、社会的な課題に真摯に向き合い、現実の問題から学び、よりよい未来を目指すという意欲や姿勢を応援したいと考えています。



詳細はこちらから！



ゲームを通じて温暖化防止の工夫を子どもに伝える活動

環境文明21

ますます温暖化が進むことが予測される厳しい時代を生き抜いていけるを得ない子どもたちに、ゲームで楽しみながら、温暖化を防ぐための基本的な行動を理解してもらい、習慣づけてもらう事を目的とするものです。既にゲームは出来上がっており、地元の小学校などで出前授業も行っていますが、毎回とても好評です。寄付により、継続的な出前授業が可能になるだけでなく、そのゲームを個人とはいかないうちでもクラスに提供（ゲームを寄付）できます。



詳細はこちらから！



私のまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギーきょうとグリーンファンド

みんなが少しずつ協力して、太陽がもたらす自然のエネルギー「太陽光発電所～おひさま発電所」を、まちにつくってきました。保育園や幼稚園、障がい者の施設、コミュニティセンター…「おひさま発電所」は太陽の光で電気が出来る「優れもの」。CO2は出ないのです。あなたにもできること、今しかできないことが、きっとあります。私たちきょうとグリーンファンドと一緒に、「おひさま発電所」を増やす「おひさまプロジェクト」を始めませんか。



詳細はこちらから！



動物も人間も集う町田の里山づくり

樹木・環境ネットワーク協会

東京都町田市にある、かつて里山として利用されていた約10haの森は、長い間放置され、林床に光が入らず、木が健全な状態ではなくなり、限られた生き物しか住むことができない森でした。これまでに10ha中2haを健全な森に再生してきましたが、残り約8haのエリアの森づくりはこれからです。未来への贈り物として、皆様のご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



サンゴを食い荒らすオニヒトデ駆除プロジェクト

石西礁湖サンゴ礁基金

石西礁湖は、石垣島と西表島の間に広がる日本で最大規模のサンゴ礁域です。しかし、1970～80年代に大量発生したオニヒトデによる被害などにより、衰退が目立っています。オニヒトデの駆除は、ダイバーが海に潜って1匹ずつ獲るしか方法はありません。しかし、船を出し、30人のダイバーが駆除に参加するため、1回あたり40万円の経費がかかります。豊かなサンゴの海を次の世代へつないでいくために、オニヒトデ駆除には是非ご協力ください！



詳細はこちらから！



ウミガメの赤ちゃんにベビーベッドを！

サンクチュアリ エヌビーオー

ウミガメの産卵シーズンになると、調査員が毎朝早朝にウミガメの産卵調査を行っています。ウミガメの産卵が発見されると卵はふ化小屋に移されてふ化まで大切に保護されます。ふ化シーズンにはひとりひとりにカメの赤ちゃんを手渡し、放流したいただく放流イベントも開催。遠州灘の赤ちゃんウミガメの保護プロジェクトにぜひご協力！そしてあなたもイベントに遊びに来てみませんか？



詳細はこちらから！



市民の力で脱原発・持続可能なエネルギー社会へ

国際環境NGO FoE Japan

東電福島第一原発事故は、市民の意識や日本のエネルギーの現状を大きく変えました。しかし、省エネルギーと自然エネルギー中心の地域分散型で持続可能なエネルギー社会の実現のためには、まだまだ市民の働きかけが必要です。FoE Japanでは、「原発再稼働をとめる」「エネルギー政策見直しに市民の「声」を伝える」「電気を選んで社会を変えよう！」といった活動を行っています。



詳細はこちらから！



中国の砂漠化地帯にマツを育てる緑化基金

緑の地球ネットワーク

山地・丘陵地にグリーンベルトをつくり、水土流失を食い止めて、耕地と農民の生活を守るためのものです。植樹作業にあたるのは現地の企業や住民です。緑化専門の企業もあり、技術も確かで、活着率は95%以上を保っています。マツ苗は1本100円ほど、1ヘクタールに1230本植えます。日本からスタディツアーを派遣して、地元のボランティアといっしょに植樹作業をしています。ツアーでは小学校を訪問して子どもたちとの交流もおこないます。



詳細はこちらから！



ESD-J 基盤強化プロジェクト

持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

ESDは「持続可能な開発のための教育」です。ESD-Jでは、「未来を変える人づくり」と呼んでいます。持続可能な開発を通じて全ての人々が安心して暮らせる未来を実現するには、わたしたち一人ひとりが、互いに協力し合いながら、さまざまな課題と力を合わせて取り組んでいくことが必要です。頂いた寄付によって、ESD-Jの活動を展開し、多くの人々にESDやSDGsについて学ぶ機会を提供することができます。



詳細はこちらから！



地球温暖化を食い止めよう

気候ネットワーク

温暖化防止のために市民の立場から提言し、行動を起こしていく環境NGO/NPOとして、多くの組織・セクターと交流・連携しながら活動を続けています。気候ネットワークは、人類の生存を脅かす気候変動を防ぎ、持続可能な地球社会を実現することをめざします。



詳細はこちらから！



霧多布(きりたっぷ)湿原の土地買い取りプロジェクト

霧多布湿原ナショナルトラスト

霧多布湿原は北海道東部の海岸線に広がる国内最大の美しい原生花園には多くの生き物が生息しています。しかし、公共工事による埋め立てや、家屋の建築などによって貴重な湿原が失われてしまっています。これ以上開発が進む前に、霧多布湿原トラストでは少しでも多くの湿原を買い取って保全し、公共の財産として未来へ残そうとしています。霧多布湿原の景観や湿原の生き物たちの世界を、未来に向けて一緒に残しませんか？



詳細はこちらから！



コアジサシの繁殖地の復活をめざして

サンクチュアリ エヌビーオー

かつて遠州灘海岸には、数千羽のコアジサシが繁殖していました。しかし、今では日本のレッドデータブックの絶滅危惧種に指定されています。行政の保護策はなく絶滅も時間の問題。10年間にわたってコアジサシの保護活動を続けてきましたが、失ったものはまだに取り戻せていません。いつの日か、春の遠州灘海岸がコアジサシの結婚ラッシュとなる日を夢見て保護活動を続けていきます。



詳細はこちらから！



知床ネイチャーキャンパス2020の開催にご協力を！

知床自然大学院大学設立財団

現在、野生生物と人間社会との間には様々な問題が生じています。このような現実に対し、様々な立場から多様な意見があり、有効な対策と合意形成が求められます。公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、全国に不足する野生生物保護管理の専門家を養成する高等教育機関の設立を目指しています。教育プログラムの検討、試行のため、合宿形式の「知床ネイチャーキャンパス」を開催し、人材養成の第一歩を踏み出したいと考えています。



詳細はこちらから！



グリーン経済プロジェクト

環境明21

持続可能な社会を支える経済のあり方について探求するプロジェクトです。現在は、第II期として「学ぶ」の視点から議論を深めている段階です。特に、社会の変革に大きな役割を果たしている経営者に目を向け、「学び」の機会を提供しようとしています。具体的には、経営者を対象とした「21世紀をリードする経営者の資格」という自己他己評価シートを作成し、その普及に努めています。



詳細はこちらから！



クマゲラの棲むブナの森復元・再生基金

白山山地を守る会

世界最大級の原生的なブナ林を持つ世界遺産白山山地は、過去にブナが伐採された森がまだたくさんあり、ブナの森に棲息する天然記念物のクマゲラの姿をここ数年みてもありません。また、最近の地球温暖化の影響で異常気象が頻繁に起こり、山がその保水力を保てません。ブナの森復元・再生活動は、多くのボランティアの参加や道具類の消耗品が必要であり、その道具類の購入の為に寄付金が必要です。是非、ご支援をよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



「海の環境学習教室」子どもたちといっしょに海の環境について学び・考えたい

アイサーチ・ジャパン (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)

イルカ・クジラの暮らす海は、私たち人間の暮らしとつながっています。研究者やウォッチングポイント、個人や企業などの支援者ネットワークを活かして、環境施設や学校などで「海の環境学習教室」を実施しています。寄付金は、プログラム実施に必要な備品の調達・整備はもちろんのこと、会場までの機材の搬出入費用等に充てられます。より多くの子どもたちに、より質の高いプログラムを提供することができるようになります。



詳細はこちらから！



ジュニアレンジャー奨学金

サンクチュアリ エヌビーオー

身近な自然を保護し、未来に伝えていくためには、感性豊かな子どもたちの存在が必要です。残された自然は、自然と共に成長したジュニアレンジャーの子どもたちに受け継いでもらいます。同じ価値観を持ち、自然のすばらしさを感じている子どもこそ次世代の環境保護活動の担い手です。サンクチュアリが認定するジュニアレンジャー。奨学金プログラムは、ジュニアレンジャーたちが行う自然保護活動をバックアップするためのプログラムです。



詳細はこちらから！



ウミガメ類を保全するための調査支援

日本ウミガメ協議会

現在、世界的にみてもウミガメ類の数は減少の道をたどっています。ウミガメ類を保全していくためには、その現状や生態を知った上で保全活動を行う必要があります。日本ウミガメ協議会ではウミガメ情報を広く集め、それらを活用して保全活動をしています。しかし現在、日々の活動は助成金等に頼っており、人件費などが不足し十分な調査や研究ができていません。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



聖光幼稚園に自然エネルギーの発電所をつくらう！～かみさまのおつくりになった自然を大切にするために

きょうとグリーンファンド

この事業は、京都市左京区にある聖光幼稚園に、市民共同で太陽光発電設備と蓄電池を設置するものです。設置後は、聖光幼稚園が環境に配慮した施設となるよう、きょうとグリーンファンドも協力して環境学習を進めていきます。このプロジェクトは、関わる多くの人々が「気候危機」に向き合い、解決に取り組むための当事者意識を呼び覚ますものです。太陽光発電は20年以上動き続け、子どもたちに「気候危機」の中でのくらし方を伝えていくことができます。



詳細はこちらから！



森里川海のありがとうのつながり再生プロジェクト <水源林・河畔林の再生>

シマフクロウ・エイド

森と海と人の暮らしをつなぐ地域の生態系の頂点のシマフクロウを環境バロメーターとして、森林生態系の再生に協働で取り組みます。

はじめに、森林の再生を実施するエリアの環境の現状を把握する生物調査を実施。

地域住民主導による取組として継続し地域自然循環を促し、一次産業の持続的な資源保護、暮らしを守る防災、北海道の生物多様性を象徴するシマフクロウの生息環境の再生につなげる同時解決



詳細はこちらから！



公害の経験を活かし、持続可能な社会づくりに取り組む

公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

「公害地域の再生」というミッションを掲げ、日本における公害問題の不幸ながらもその貴重な経験と教訓を受け継ぎ、持続可能な社会づくりをめざした実践活動を創造的にこなっています。多岐に渡る公害被害を見据え、SDGsウェディングケーキモデルの中間層である「社会資本」(社会圏)に係わる多くの活動を展開してきました。



詳細はこちらから！



森林・援農ボランティアの活動地を広げたい！プロジェクト

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)

農山漁村の過疎高齢化の影響で、荒廃した森林や耕作放棄地が増えています。一方で都市部では、森林保全や援農活動、ボランティアに関心を持ち、活動のきっかけを求めている人々がいます。JUONでは、そのような都市住民と農山漁村をつなぎ、全国で森林・援農ボランティアの活動を行っていますが、国内過疎地への更なる森林保全・援農活動、及びボランティアが活躍できる場の拡大のため、活動地を増やしたいと考えています。



詳細はこちらから！



100年後も今と変わらない大雪山のために

大雪山自然学校

当団体が行っている環境問題は、①登山道崩壊(土壌侵食)と②生態系の破壊(外来動植物の侵入・高山植物減少)です。団体メンバーだけではなく、より多くのボランティア、市民や企業など多様な主体が「大雪山の利用者」として課題解決に取り組む仕組みをつくるために、外来動植物の防除活動、散策路・登山道整備活動、ビジターへのレクチャーや情報発信などの普及啓発活動、「寄付」という方法での環境保全に携わる仕組みづくりを実施します。



詳細はこちらから！



西淀川・公害と環境資料館 公害資料整理(ハモン基金)

公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

西淀川公害に関する資料の整理のための資金です。住民が声を挙げ、行政・企業と協働で取り組んだ公害解決方法を学べるように整理していきます。患者会の資料を整理して、多くの人に伝えていくことは、公害の予防につながり、海外への市民活動の支援になります。また、公害の被害に会った人たちへの道しるべにもなります。Hamon(ハモン)基金は、エコミューズの活動を継続かつ発展的に進めていくための活動資金です。



詳細はこちらから！



公害の経験を世界へ—あおぞら翻訳基金

公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

日本の公害は、被害を受けた公害患者が声を挙げ、市民運動が展開されたことを受けて、国の法律策定や企業の取り組みなどが進み、現在ではかなり改善されました。そうした日本の公害の経験を海外に発信することで、諸外国の環境問題への関心を高め、環境改善に向けた行動を促すことができると考えます。公害の解決には、まず市民が問題を認識することが不可欠なのです。



詳細はこちらから！



世界のゴミを減らす！宮古島の子どもたちから・・・

宮古島の環境ネットワーク

2050年には魚の数より海洋ゴミの方が多くなるといわれるほど、世界的な問題となっている海のゴミ。最近注目されているマイクロプラスチックは紫外線の強い沖縄で多く生まれ、中でも宮古島には大量の漂着ゴミや不法投棄がありますが、現状や問題は島民に広く知られてはいません。次の世代を担う子どもたちと漂着ゴミ調査やゴミ問題の環境学習などを継続し、ゴミ問題に向き合い行動する人のネットワークを広げたいと思っています。



詳細はこちらから！



海洋プラスチック・フリープロジェクト

おおい環境保全フォーラム

地球規模で起きているプラスチックゴミによる海洋汚染、砂浜の減少、外来生物による生態系への影響など、国民一人一人が考えなくてはならない問題が数多くあります。今回のプロジェクトは、大分県佐伯市の河川流域と海岸域の住民と協働で、マイクロプラスチック化による海洋汚染問題解決のために、海洋プラスチックゴミ削減に向けた普及啓発活動を推進する活動のための基盤を構築するプロジェクトを実施します。



詳細はこちらから！



日本のふるさとの棚田を再生し、100年後の子どもたちに残したい！

棚田LOVER's

地域の方々から「過疎化・労働力不足・赤字の経営・鳥獣被害等により棚田が放棄され失われている」という生の声を訴えています。さらに、多くの石垣も崩れ、再生が緊急に求められています。上記の課題解決のために、都市や農村から参加者を募り、棚田での農作業体験(米作り・草刈り・整備等)、石垣積み崩れの棚田の保全・再生を通じて、自然環境や農、食に興味を持ってもらう自然体験を行い、都市と農村をつなぎ、普及啓発・人材育成を行います。



詳細はこちらから！



「やまパト」でイリオモテヤマネコ交通事故をゼロに！

トラ・ゾウ保護基金

水の豊かな、手つかずの大自然が残る西表島。この島だけに暮らす100頭のイリオモテヤマネコが、絶滅の危機にあります。原因の1つが島の唯一の幹線道路での交通事故。昨年は最多の7頭が死にました。地元の車もレンタカーもお客さんを乗せたガイドの車も、法定速度以上のスピードで飛ばしていきます。そこで島の人たちで作った「やまパト」が、ヤマネコの出没する時間に合わせて夜間パトロールや普及啓発などを行っていきたく考えています。



詳細はこちらから！



若い力を活かして森に元気を取り戻したい！プロジェクト

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)

今、日本の森林が元気をなくしています。過疎化や高齢化が進み、手入れをする人が少なくなっていることも原因の一つです。このような状況の森林に、また元気になってもらうには人手(特に若い人)が必要となります。そこでこのプロジェクトでは、より多くの若い人たちに森林に元気にする活動へ参加してもらうため、若い世代への広報を強化し活動自体の認知度向上を目指します。



詳細はこちらから！



サンゴの白化情報発信プロジェクト

石西礁湖サンゴ礁基金

八重山地域などでサンゴの大規模な白化現象が起こっています。オニヒトデの大発生のおと回復しつつあるサンゴ礁が、また大きな被害を受けることが心配されます。サンゴ礁海域を仕事の場とする人たちが、写真と撮影者の思いを込めたコメントを集め、ポスター作成と展示などを通じ、実際に目撃したことを広く発信するプロジェクトを始めました。当団体はプロジェクトメンバーに代わり、広くみなさまに、その資金を募ります。



詳細はこちらから！



国産材・間伐材の割り箸を広げたい！プロジェクト

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)

森林には、地球温暖化防止、水源涵養、災害防止などの役割があります。ところが今、手入れがされずに日本の森林は荒れています。外国からの安価な木材の安定的な輸入、また、過疎化や高齢化による担い手不足により、林業が荒廃しているからです。経済的に成り立たなければ、手入れはされません。そこで、このプロジェクトでは、森林・林業が活性化されればとの思いから、国産間伐材製「樹恩割り箸」の使用を進めます。



詳細はこちらから！



森林ボランティアの若手リーダーを育成したい！

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)

日本の森林は、過疎化や高齢化による担い手不足等により、荒れています。また、森林と共に生きてきた方は高齢になり、森林を育てる技術や森林の恵みを活かす知恵は、若者が受け継いでいかなければ、残すことはできません。森林を守る活動を広げっていくためには、たくさんの方が必要ですが、そのボランティアを支えるリーダーも必要です。このプロジェクトでは、若いリーダーを育てることを目的としています。



詳細はこちらから！



棚田・ぶどう畑の耕作放棄を増やさない！プロジェクト

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)

過疎高齢化の進行や食糧自給率の低下によって、日本の農業は担い手不足に陥っています。先祖から受け継いできた田畑が放置されれば雑草となり、病気や害虫の発生源にもなってしまいます。このプロジェクトでは、援農ボランティア活動を広げることで自然を愛する人や農業をやってみたい人の力を守り、食卓に美味しい産品を届けてくれる農家の方を応援することで、国土や環境を保全します。



詳細はこちらから！



日本最大のサンゴ礁を救う赤土流出防止プロジェクト

石西礁湖サンゴ礁基金

日本最大のサンゴ礁石西礁湖(せきせいしゅうこ)が衰退し危機に瀕しています。その回復のためには、サンゴを食べるオニヒトデの駆除などのほか、サンゴの生育環境の改善が必要です。サンゴはきれいな水でないと生きられません。赤土流出による濁りで光合成ができなくなり、同時に流出する肥料などが藻類を繁殖させてサンゴの生育場所を狭めます。サトウキビの農法転換などにより、農地からの赤土流出防止を目指します。



詳細はこちらから！



サンゴ礁再生につなげる環境教育プロジェクト

石西礁湖サンゴ礁基金

沖縄県石垣島と西表島に広がる日本最大のサンゴ礁、石西礁湖が、赤土流出や水質悪化、オニヒトデの大量発生による食害、高水温による白化などの影響によって衰退し、危機に瀕しています。一方で、地元住民の多くは海との関わりが薄くなっており、サンゴ礁への関心が高いとは言えません。このプロジェクトは、多くの方が、サンゴ礁の価値と再生の必要性、そのために自分たちができることを考える、糸口となることを目指しています。



詳細はこちらから！



日本海の気候が作った世界最大規模のブナ林を守る会

白神山地を守る会

ブナ枯れやナラ枯れなどの温暖化の影響を防止する為には、白神山地から採取したブナの種から苗木をつくり、植林する事業を続けることが大切だと考えます。活着の技術の確立や、コンテナ苗木づくりの技術を確立しつつ、苗木を害虫から守る技術の確立も必要です。また、多くの方が植林活動に参加して、過去にブナが伐られた森に一本一本ブナを植林していく活動を継続してきたいと考えています。



詳細はこちらから！



つくろう自然大学院、自然との共生実現の学び舎を！

知床自然大学院大学設立財団

近代以降、世界的な開発と経済成長は、地球規模の環境問題を引き起こしました。野生生物と人間社会との間には様々な問題が生じています。その軋轢(あつれき)を回避し、共存のための課題を解決することが急務です。「自然との共生」「持続可能性」をテーマに、世界的にも貴重な生態系と生物多様性の知床をフィールドに、新しい構想の専門職大学院大学を設立し、自然と人間の調和の実現に取り組む専門家を養成します。



詳細はこちらから！



「白神山地のブナの植樹祭を応援しよう」プロジェクト

白神山地を守る会

白神山地は世界最大級の原生的なブナ林が広大に残存していることが評価され、自然遺産として登録されましたが、世界遺産になる前にその周辺部分は過去にブナが伐採され、森の荒廃が進んでいます。白神山地を守る会は、白神山地から種を拾い、その種を苗木にして、植樹祭を実施する為の「白神山地ブナ植樹フェスタin赤石川実行委員会」をつくり、毎年植樹活動を展開してきました。これからの活動を継続して続けていきたいと考えております。



詳細はこちらから！



「学校・園庭ビオトープ」で子どもたちの身近に自然を！

日本生態系協会

子どもたちの豊かな感性をはくむためには、自然との日常的なふれあいが欠かせません。子どもたちが日中の大半を過ごす学校や園で、安全に自然とふれあえる機会を増やしていけるよう、敷地内を中心に、樹林や草はら、水辺など、地域の野生の生きものがくらす場「ビオトープ」を設置し、活用していくプロジェクトを進めています。



詳細はこちらから！



シングルマザーと子どもたちの居場所、「WACCA(わかっか)」

女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

災害時に、より被害を被るのは子どもたちと女性といわれていますが、今回の新型コロナウイルスの影響をもろに受けているのが、シングルマザーと子どもたち、そして孤立しがちな単身女性たちです。このプロジェクトでは、貧困や孤立に陥りやすい子どもたちやシングルマザーおよび単身女性たちの居場所を開設しています。ひとり親家庭の子どもたちの無料のWACCA塾では、小中学生が学習ボランティアの支援を受けて、週3回勉強に取り組んでいます。



詳細はこちらから！



若い世代へ向けてのデートDV防止出張授業

女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

兵庫県との協働事業でデートDV防止出張授業に取り組んでいます。授業は「暴力とは何か」「何故、暴力が起きるのか」「対等な関係をつくるには」を中心に展開されます。これまでに、中学345校、高校495校、大学175校、234,376人に授業を提供してきました。1回でも多く授業を実施するために、ご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



経済状況の苦しいシングル家庭を病児保育で救う

フローレンス

共働き家庭のお子さんが急に病気になったとき、保育スタッフが預かる病児保育サービスを提供しています。「寄付によるひとり親支援プラン」は同様のサービスを低価格で提供しているものです。毎月定額のご寄付をいただくひとり親家庭支援サポート隊員や法人、個人のご寄付により、ご支援いただき約260世帯のひとり親家庭をサポートしています。ひとり親家庭が安心して働ける環境を整えるために、皆さんのご協力をお願い致します。



詳細はこちらから！



女性と子どものための民間シェルター「ともだちの家」はDV被害女性の最後の砦です

女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

民間シェルターを開設し、今年で15年目、これまでに350組の女性や母子を保護してきました。シェルターを出た後も家庭訪問や月1回の食糧支援を行う等、生活再建に向けて継続した支援を行っています。民間シェルターはDV被害女性の最後の砦であり、貴重な社会資源となっております。しかし、財政難から職員世代交代ができず、活動を維持することが厳しい状況にあります。どうか、皆様のおたかいご支援をよろしくお願いします。



詳細はこちらから！



夜の仕事に携わるシングルマザーのためのセカンドキャリア支援事業

GrowAsPeople

本事業は、経済的に困難な状況に陥りやすく社会的にも孤立しやすい夜の仕事に携わるシングルマザーのセカンドキャリア形成をサポートします。セカンドキャリア支援を通して、当事者の社会からの孤立を防ぎ、母子の安全な生活を目指します。また、働くことの意義を学ぶ機会を提供することで、正規雇用へ就くことへのモチベーションも喚起します。



詳細はこちらから！



性暴力被害者支援プロジェクト

レイブクライシスセンター-TSUBOMI

性暴力にあわれた方が安心して相談／お話ができるよう、性暴力被害者に詳しい相談員による電話相談やメール相談、面接相談を行っています。1人では外出が不安、困難、という方のためには、病院、警察等の公共機関や弁護士事務所へ行く際の付き添いも実施しています。支援業務を充実させるために、支援員の育成を行っています。さらに、性暴力被害の実態を世間に伝え、性暴力のない社会をつくるために、情報発信、研修、講演、政策提言等を行っています。



詳細はこちらから！



新宿連絡会 基盤強化プロジェクト

新宿連絡会

ホームレス問題とは路上で暮らす人々特有の問題だけでなく、路上生活者の自立のために全力で努力すらしめない社会の問題でもあります。新宿連絡会では路上で暮らざるを得ない人々を、私たちと同じ社会の中で生きるひとりの人間として平等に接し、路上生活者に対する偏見をなくし、「失業」「貧困」など様々な困難を共に解決していく支援活動を目指し、実践することを目的としています。



詳細はこちらから！



住まいで進学をサポート！スマイリングプロジェクト

ブリッジフォースマイル

児童養護施設所者の約半数が一人暮らしを始めます。大人数での施設生活からアパートでの一人暮らしはギャップが大きく、孤独感を強めることも多いです。また、生活費のなかでも家賃の占める割合は高く、経済的に厳しくなると家賃を滞納して消息を絶ってしまうこともあります。そのような若者を経済的、精神的にサポートしたいとの思いから、シェアハウスを運営しています。卒業までに緩やかに自立の準備を整えていけるよう支援しています。



詳細はこちらから！



「路上脱出ガイド」の改訂・配布プロジェクト

ビッグイシュー基金

路上生活者やその恐れのある人が路上から脱出できるための情報誌、「路上脱出ガイド」。今回、平成27年4月の生活困窮者自立支援法の施行にもなっており、新しく設置された相談窓口や制度の説明追加にこたえ、掲載情報の見直しや更新のために、本ガイドの東京版と大阪版の改訂を行います。また、路上では接触できないホームレスの方にも情報を届けるため、図書館やネットカフェなどにも置いていただくなど、配布先の拡大も予定しています。



詳細はこちらから！



無料の「働く女性のホットライン」を支えてください

はたらく女性の全国センター(ACW2)

わたしたちは、「はたらくを自分を支え、人を支え、命をささえるあらゆる営みである」としています。賞金が支払われる労働だけではなく、無償の家事・育児・介護も「はたらく」に含まれます。はたらくことについての事情は、多くの場合、複雑に絡み合っています。どこかに相談したくても、孤立し、自分一人で悩むこともあり、電話代を払うのが大変なときもあります。わたしたちは、女性がたがいに支え合う無料のホットライン活動を続けています。



詳細はこちらから！



障害児を持つ親が働けない、障害児保育問題を解決する

フローレンス

保育園や幼稚園では、医療的ケアが必要な子どもや重い障害を持った子どもは、預かってもらうことができません。障害児を持つ母親のほとんどは、医療費や療育費など、子育てにかかる費用が必要であるにもかかわらず、預かり先が無いために仕事を諦めているのが現状です。フローレンスでは、「障害児訪問保育アニー」によって、障害を持ったお子さんを1日保育することで、障害児をもつ親御さんの就労を支援しています。



詳細はこちらから！



児童養護施設で暮らす子ども達にキャリア教育の機会を

フェアスタートサポート

虐待や貧困により児童養護施設で暮らしている子ども達がいま。子ども達の多くは高校卒業と同時に就職し一人暮らしを始め自立をせまられますが、18歳という早さでの自立に多くがワーキングプアとなっている現状があります。彼ら彼女らが自立後も満足のいく「はたらく」を実現し安定した生活を送ることができるよう、施設で暮らす中高生を対象に、会社見学やインターンシップの機会提供を通じたキャリア教育支援を行います。



詳細はこちらから！



ひきこもり等の自主的地域家族会立上げ定着応援事業

案の会リーラ

わたしたちが解決したい社会課題は、“社会的孤立無援（縁）状態の解消”と“大人の生きづらさ（高齢化）の予防”です。当法人が、事務局を担っている「ひきこもりの地域家族会連絡協議会（東京）」の活動と今までの活動実績を活かして、東京都内の基礎自治体ごとに立ち上がった自主的な地域家族会の当事者と地域社会の架け橋となるために、相談会や居場所等の事業サポートを通じて、予防をしていきたいと考えています。



詳細はこちらから！



ひきこもり本人・家族の社会的孤立を防ぐプロジェクト

KHJ全国ひきこもり家族会連合会

ひきこもり状態に陥った方は、ひきこもらざるをえない苦しみを抱えています。長期ひきこもりの7割が就労経験者であり、社会的、心理的、身体的な様々な理由で他者との関係が断たれ、そこから長期間抜け出すことができない方が増えています。そこで参加者同士が立場を超えて「対等の立場」で参加できる場をつくる予定です。安心・安全を担保するために、必ず対話の場には、その場を調整する「ファシリテーター」を置こうと考えています。



詳細はこちらから！



デジタル技術を活用した仕事と暮らしづくり：IoTとFabと福祉

たんぼぼの家

AIやIoTを実現する技術が実用化されつつあり、レーザーカッターや3Dプリンタなど自分が必要なものは（ほぼ）何でもつくれる技術の民主化がひろがっています。それらを積極的に活用することで、福祉における経済的な課題（障害のある人の所得が低く、はたらく選択肢が少ないこと）を解決し、さらに、技術を体験でき学ぶことができる場所を増やし、人材を育成する場と交流できる居場所を地域につくる予定です。



詳細はこちらから！



DVから女性や子どもを守る支援者を育成したい

全国女性シェルターネット

全国女性シェルターネットは、全国の民間シェルターなどが加盟する全国ネットワークです。民間シェルターでは、DV被害当事者である女性や子どもたちが暴力から逃れ、着の身着のままでも安心して生活再建ができるよう、相談、一時保護、自立支援の長期的なサポートを行なっています。DV被害者・子どもたちのための相談支援に対して専門性を持った人材を確実に育成するための基準やカリキュラム及び認定の仕組みを作りたいと考えています。



詳細はこちらから！



暴力のない社会をつくるためのパープル・リボン・プロジェクト

全国女性シェルターネットワーク

パープル・リボン・プロジェクトは“DVや虐待などの暴力をなくすこと”“暴力の被害にあっている人たちの安全を守ること”“暴力の問題に関心をもってもらうこと”を目指し行動するものです。全国女性シェルターネットワークではこれからも、DV・虐待・性暴力の現状の把握や、対策の向上を目指し、調査や政策提言、広く社会への情報発信を行っています。



詳細はこちらから！



神戸定住外国人支援センター 基盤強化プロジェクト

神戸定住外国人支援センター (KFC)

日本には多くの外国人が、日本に移住し家族をもうけ暮らしています。多くの地域、職場、学校で日本人と外国人が互いを尊重し共に生きるための活動が生まれています。しかし世帯を重ねても移民に社会は目をむけていない現実もあります。KFCは多くの人々の協力を得ながら、日本社会の中にある偏見や差別をり除き、豊かな多様性が尊重される共生社会の実現を願い事業を進めています。



詳細はこちらから！



草の根市民基金・ぐらん

まちぼっと

国際化・巨大化・複雑化している社会的諸問題や、多様な市民のまちづくりを応援するための助成活動を開始したのがはじまりです。ご寄付は、助成金のほか、公開選考会経費、交流会経費、運営人件費、ニュースレターや寄付募集などの広報関係、会議費などに使わせていただいています。



詳細はこちらから！



障害をもつ人が権利をまもるために！

DPJ日本会議

障害をもつ相談員が、自分自身の障害にかかわる体験を活かしながら、当事者の視点から、障害をもつすべての人の権利侵害に関する相談に応じしています。気軽に相談をしてもらえよう、相談の対応はすべて無料でなっていますが、全国から寄せられる相談に対応するためのスタッフ人件費や訪問の際の交通費等、運営資金の調達には常に大きな課題です。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



医療通訳スタッフ派遣システム普及事業

多言語社会リソースかながわ

異なる言語と文化の中で暮らすことは、多くの不自由や困難を伴います。病气やケガをして治療を受けなければならなくなったとき、「ことばの壁」はより深刻なものとなります。「人種、国籍、文化に関わらず、だれもが安心して医療を受けられるような社会にしなければならない」という理念の下、MICかながわは、神奈川県内の自治体や医療機関と協働して、通訳ボランティアを育成し、医療機関へ通訳を派遣しています。



詳細はこちらから！



東京YMCA liby (リビー) 基盤強化プロジェクト

東京YMCA“liby (リビー)”

libyとは、let it be at the YMCA of Tokyoの略。東京YMCAがプロデュースする、誰でもありのままにいられる場所です。多くの人が生きにくさを感じる時代、libyの投げかけるメッセージは、他にないだけに、ますます増してきていのように思われます。皆様からお預るご寄付は、こうした子どもたちを支え続けていくための経費として全て使われます。是非、一人でも多くの皆様にご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



外国にルーツを持つ子どもの高校進学・卒業を支えて下さい！

神戸定住外国人支援センター (KFC)

日本人の高校進学率に比べて、兵庫県内で暮らす外国人の中学生の高校進学率は低く、また高校中退率は高い状況にあります。外国人の子どもの言葉のハンディなどにより授業についていくのも難しく、不慣れた生活環境や文化・価値観の違いなど、深刻な問題に直面しており学校生活を続けていくことが難しい状況にあるからです。状況を少しでも改善するため、学習支援を中心とした居場所づくり事業や奨学金給付などの事業を実施しています。



詳細はこちらから！



ばれっと・マンスリーサポーター

ばれっと

【本当の豊かさとは福祉制度のその“先”にある】
ばれっとは、就労、暮らし、余暇などの生活場面において、障害のある人たちの直面する問題の解決を通して、すべての人々が当たり前になり暮らせる社会の実現を目指します。「誰もが当たり前暮らせる社会」・・・福祉や社会の枠にとらわれないで、発想を転換し、新しい社会を創造する「ばれっと」の活動を応援してください。



詳細はこちらから！



多文化な子どもたちによる表現活動 Re:C [れっく]

ワールドキッズコミュニティ

在日外国人が人口の約1割を占める神戸市長田区を拠点に、多文化な背景を持つ子どもたちによる映像制作をはじめとした表現・発信活動をサポートしています。多文化な子どもたちの発信が、国籍や年齢の壁を越えて、人と人がつながる豊かな社会を築き上げていく可能性になること。それが私たちのプロジェクト「Re:C [れっく]」です。ご寄付は、子どもたちの表現活動で使用する機材や道具の購入費に充当させていただきます。



詳細はこちらから！



Give One (ギブワン) サポーター

パブリックリソース財団

Give One (ギブワン) は、NPOだけでなく「世の中をよくしたい」という一人ひとりを応援する寄付サイトです。寄付を通じて市民社会参加の促進を目指し、決済システムの安定性をさらに高めると同時に、寄付者の方々へ提供する情報を充実させることで、寄付者の方々が安心して主体的に寄付プロジェクトを選ぶ「寄付者中心主義」を実践していきます。Give Oneをみなさまのお役に立つサイトに育てるために、ご支援をお願いします。



詳細はこちらから！



DV被害者支援活動を支援してください！

女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

DV (夫・恋人からの暴力) は大きな社会問題であり、被害女性とその子どもに対する人権侵害です。ウィメンズネット・こうべは阪神淡路大震災を契機にDV被害者と子どもたちの支援を行っています。一本の電話から始まり、面接相談、必要に応じて同行支援、緊急一時保護のためのシェルターの運営、その後の生活再建までの伴走型支援も行っています。公的な財政支援が乏しいなか、活動を継続させるために皆さまのご支援ご協力をぜひお願いいたします。



詳細はこちらから！



多文化共生ホームステイ in フィリピン ～アイデンティティの確立を目指して～

カバティラン

カバティランが支援する海外にルーツを持つ子どもたちは、多くの場合アイデンティティクライシスという課題を抱えています。彼らは自分のルーツを知らず、時として否定すらします。このプロジェクトは、そんな子どもたちに多文化共生を実体験させるためのものです。フィリピンソン島北部の山村でホームステイを行い、言葉や文化が異なる人々と共に暮らし、互いを認めあうことで、アイデンティティ確立のきっかけを作ります。



詳細はこちらから！



ソーシャル・ジャスティス基金

まちぼっど

SJFが特に支援しているアドボカシー活動とは、自分を責め抱え込んでいる人の問題を、社会的課題として共有し、解決に向けて社会に提案したり法制度等の改善を提案したりするものです。SJFの助成は、資金援助だけでなく、社会対話の場であるアドボカシーカフェを共に創ることや、助成担当者や事務局等が発展的評価を行う伴走型です。ご寄付は、この助成事業に大切にさせていただきます。



詳細はこちらから！



共に議論できる場をつくる為に、『情報保障』が必要です。

DPI日本会議

障害者の方の中には、地域で暮らしたくても、いまだに多くの『壁』があり、障害者が社会参加できる環境は整っているとは言えません。DPI日本会議では、全国各地から障害のある人、研究者、支援者の方などが集まり、障害のある人が今どんな問題を抱えているのか、国・行政が行っている障害者政策など、現状と課題を共有し、私たち当事者が何をすればいいのかを議論するための集いや学習会を随時開催していきたいと考えています。



詳細はこちらから！



アプリがいない簡単支援システムで難聴児を笑顔に！

長野サマライズ・センター

「聞こえない、聞こえにくい」お子さんたちは人口の3%以上いると言われていますが、音声情報が優位な今の社会では必要な情報を十分に手に入れられず、社会に出てからの活躍が制限されてしまうこともあります。聴覚障がい者へ遠隔から情報を支援できるWebを活用したシステムを活用させていただき、難聴当事者生徒・学生、保護者などの皆さんにご協力いただき、どういった使い方が最も適しているか一緒に考えていきたいと思っています。



詳細はこちらから！



家族問題をみんなでカンガエルプロジェクト

インフォメーションギャップバスター

家族に「聞こえない人」と「聞こえる人」がいる場合、「家族は遠慮せずに話したい、ちゃんとケンカするのはいいこと」、「どんな手段でも伝えあう、一緒に解決を考える」にもコミュニケーションバリアの課題がある。本プロジェクトでは、「聞こえない大人」と「聞こえない家族をもつ聞こえる大人」が中心となって、次世代の「聞こえない子ども」と「聞こえる子ども」、そして、「親御さん」に共感しながら解決の糸口を一緒に考えていく。



詳細はこちらから！



海外にルーツをもつ学生に奨学金支援を！

カパティラン

日本で暮らす海外にルーツをもつ子どもたちが、日本の高校、大学に入学し、学業を続けることは、生活・経済環境的に非常に困難です。彼らを支援するために在日外国人支援団体であるカパティランでは、2015年から奨学金制度をはじめています。現在、12人が奨学金支給を受けています。もっとたくさんの在日外国人やその子どもたちが、安心して学び続けることができるようにしたいと考えています。是非、ご支援下さい！



詳細はこちらから！



いま、私たちにできること - 地域社会のニーズをサポート

Hands On Tokyo

国際交流から生まれたボランティア団体である私たちは、コミュニティのニーズに合った有意義なボランティア活動の場を二か国語で提供することにより、社会へ貢献し、ボランティアリズムを浸透させ、リーダーたちを育成することをミッションとしています。皆さまからの寄付金は、より有意義で、より質の高い社会貢献活動を継続して行なうため、活動の内容を充実させていく際の大きな支えとなります。



詳細はこちらから！



電話をバリアフリー化する「電話リレーサービス」を社会に広く知らしめたい

インフォメーションギャップバスター

きこえない・きこえにくい・しゃべれない・しゃべりにくい方は、電話による連絡ができないため、いざという時にとても困ってしまいます。本プロジェクトでは、オペレーターが“手話や文字”を“音声”に翻訳することにより、電話でリアルタイムに双方でやりとりができるようにするサービス「電話リレーサービス」の啓発普及活動を行い、すべての人が電話ができる社会を目指しています。



詳細はこちらから！



障害のある人と新しい働き方をつくるGood Job!プロジェクト

たんばぼの家

障害のある人と協働し、アート・デザイン・ビジネス・福祉の分野を超えて、新たな仕事と働き方の仕組みをつくる試みです。障害のある人のアートをいかした魅力的なプロダクト、伝統産業や地場産業など地域と福祉の協働から生まれる仕事など、既存の労働観にとらわれないユニークな活動が国内外で生まれています。その活動をひろげて深めることが、より多くの人たちの生き方の選択肢をつくり出すことにつながります。



詳細はこちらから！



聴覚障害児サポートブックをマンガにしたい！

長野サマライズ・センター

近年、技術の進歩により地域学校の通常学級に通う聴覚障がい児が増えています。聴覚障がい児本人が学び、学校生活を送るにあたっての支援は十分とは言えない状況です。私達は、先生や保護者の方に向け、支援方法や体験などをまとめた冊子を作成しました。これを幅広い年齢層や立場の方に読みやすいマンガに直して、この社会で生活している人が「きこえないってなんだろう」と考えたり実践に繋がったりできる機会づくりを目指します。



詳細はこちらから！



性暴力の被害者に専門的な支援を

女性の安全と健康のための支援教育センター

女性の安全と健康のための支援教育センターは、1) 暴力・虐待を生む社会構造の変革につながる支援者を増やすこと、2) 女性や子どもへの暴力・虐待について、社会認識をたかめること、3) 女性・子どもの人権の確立を目指しております。主な事業は、研修講座、公開講座、出張講座の実施と出版です。



詳細はこちらから！



みんなの“表現”を展示することからみえるもの

もうひとつの美術館

大正時代に建てられた元教室を使って、毎年自主企画を2回企画して、いろんな角度からいろんな表現者を紹介している。言葉で表現するのが難しくても、もの（作品）としての“表現”は直接、観る人の感性に訴える。言葉でない“表現”を観ることからみえてくるものを伝えたい。そして自ら“表現”してある楽しさも味わってほしい。



詳細はこちらから！



Music Cross Aid-ライブエンタメ従事者支援基金-

Music Cross Aid-パブリックリソース財団事務局

日本のライブエンターテインメントを支えて来た事業者や技術スタッフの多くが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により長期間活動が途絶え、困窮しています。今こそ音楽業界最大の危機を救う音楽ライブエンタメ従事者支援基金を創設します！基金に寄せていただいた貴重な力や資金は、必ずこれからのライブエンターテインメント産業の復興、復活に役立ててまいります。どうかご支援、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



詳細はこちらから！



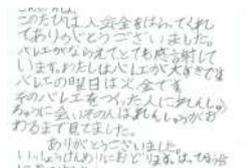
経済的な理由で部活が続けられない子供たちに部活をやってきた大人はぜひ見てください

リトルワンス

サッカーシューズ、野球のグラブ、道着、竹刀、バトン、ラケット。スポーツにとって、道具は身体の一部です。工夫と修理を重ねて大事に使い、いつか、大きな舞台上で戦えることを夢見て、練習に励む後輩たちがいます。そして、経済的な理由が原因で、道具がなかったり、練習や試合に行けない未来の後輩たちもたくさん待っています。「後輩」の小さな一歩を応援する新しいプロジェクトがスタートしました。あなたも、一緒に後輩を応援してみま



詳細はこちらから！



東日本大震災復興支援活動 Good Job! 東北プロジェクト

エイブル・アート・ジャパン

本事業は、アートやデザインを通して障害のある人の仕事づくりへの関心を高める啓発普及であると同時に、障害者支援施設、デザイナーなどの出会いの場であり、支援につなげていくためのプラットフォームづくりの場でもあります。障害のある人のアートや彼ら自身のもつ力を社会づくりにいかしていくという動きは全国的に注目を浴びています。この全国的な動きに東北の動きを連動させ、東北の地からも魅力的な仕事の事例を発信していく予定です。



詳細はこちらから！



ちがいを認め合うアート空間「エイブルアート・スタジオ」の〈アフターコロナ〉に向けて

エイブル・アート・ジャパン

エイブルアート・スタジオは誰にも開かれた多目的な場です。アート・社会・福祉を切り口に「アトリエ・ポレポレ」と「エイブルアート芸術大学」の2つのプログラムを開催しています。参加する方たちは主に障害のある人たちです。障害のある人たちにとって、地域の中で安心して参加し、楽しめる場はまだそんなに多くはありません。また、〈アフターコロナ〉に向けて、このような小さなスタジオがどう活動しているのかが大きな課題になっています。



詳細はこちらから！



東京おもちゃ美術館『一口館長』募集中

芸術と遊び創造協会

「東京おもちゃ美術館」は、戦前にドイツ人の建築家によって設計され、地域住民に愛されながらも少子化の影響で廃校になった、旧新宿区立立四谷第四小学校の校舎を活用した美術館です。館内には、会話を豊かにするおもちゃ約5,000点が展示されており、そのおよそ8割は実際に手にとり触れることができます。手ざわり抜群の木製玩具、誰もが夢中になるテーブルゲームなど、遊ぶことで誰かと話したくなるコミュニケーション促進玩具が充実しています。



詳細はこちらから！



すべての子どもに感性を育てる“本物の体験”「みんなのコンサート」を届けます！

みんなのこぼ

豊かな心や感性を育てるのに一番大切な未就学児期。しかし「体験の格差」が広がり、子どもの家庭環境・教育環境によって、心を豊かにする“本物の体験”の機会が限られています。私たちは、プロの音楽家とともに、心が動く・感動するといった原体験をつくる、未就学児専門の参加型クラシックコンサートを、ご寄付によって環境や予算面で体験機会の少ない子どもたちにも届けます。



詳細はこちらから！



Dress farm 2020 基金

パブリックリソース財団

日夜戦い続けてくださっている医療機関・関係者の方々の医療体制、生活環境が改善されることに繋がりたい。まずは音楽ライブ業界で働く方々の今を救い、再び皆で感動できる瞬間に繋がりたい。そのような気持ちから、sumikaが発起人となってこの基金を立ち上げました。新曲4曲・未発表ライブ映像4曲の価値をみなさんそれぞれに決めていただき、その価値に見合った金額をこの基金に寄付していただ



詳細はこちらから！



青森県内の頑張るNPO紹介プロジェクト

あおりNPOサポートセンター

私たちはNPO中間支援組織の立場から県内で素晴らしい活動を行っているNPOを取材し、当法人のHPで紹介しています。またNPO法人あおりラジオくらぶと協働し、インタビュー音声サイトを掲載しています。様々な現場で活躍するNPOの記事と生の声を発信することで、生きた情報をみなさんに提供しています。このサイトをさらに充実したものにするため、みなさまからのご支援をいただき、より多くの団体を紹介していきたいと思いま



詳細はこちらから！



障害のある作家の展覧会 エイブル・アート・アワード

エイブル・アート・ジャパン

障害のある人の芸術活動を制作面、発表面からさらに支援するために、私たちNPOでは、彼らの芸術活動を支援するための助成金事業を実施しています。作家の表現活動が社会で認められることによって、施設や家庭内など、活動するための環境が改善され、確保されやすくなります。この20年の活動を通して発掘された作家を中心に、公立美術館での企画展の開催につながるなど、アーティストとしての登壇的な役割を果たしています。



詳細はこちらから！



フリースクールと劇団の活動スペースを建設します

創る村

現在、様々な事情があって活動できるスペースは『老菜子の家』の一角だけとなっています。これからも子どもたちを受け入れ、音楽や遊びのある活動を続けていくためには広いスペースを必要としています。そこで、勝手ながら多目的ホールの建設資金として皆さんのご支援を賜りたくお願い申し上げます。まだまだ未熟ですが、教育と芸術と福祉を通じて少しでも社会を良くしたいと考えております。



詳細はこちらから！



病児の暮らしを“遊び”で楽しく豊かなものに！

芸術と遊び創造協会

芸術と遊び創造協会では遊びが不足しがちな子どもたちのため、小児病棟内に「おもちゃライブラリー」開設。おもちゃの専門家であるおもちゃコンサルタントが病児とその家族をケアしています。また、言葉に問題がある子には電話のおもちゃ、おもちゃへの関心が薄い子には五感を刺激するおもちゃのように、その子に合った遊びを提供しています。



詳細はこちらから！



国外



災害

紛争・難民

こども

医療と福祉

安全な水とトイレ

環境

人権

ネパールで行う洪水に負けない地域づくり

シャプラニール=市民による海外協力の会

ネパール南部のチトワン郡は人口が集中し、洪水が起きると家屋や家畜、農作物など広範囲にわたって甚大な被害が生じます。しかし安全な場所に移り住むことは簡単ではなく、災害を止めることもできません。被害を最小限にするためには、住民・行政の能力強化が不可欠です。洪水対策インフラの設置や、防災計画の策定支援、インフラ維持管理支援等を行い、市・区・コミュニティレベルで「災害に強い地域づくり」を目指します。



詳細はこちらから！



【ミャンマー避難民に緊急支援】80万人が人道危機

ジャパン・プラットフォーム

コックスバザールにはもともと約80万人が避難しているとされていますが、8月25日以降、新たにミャンマーから国境を越えて隣国 Bangladesh に避難した人は50万人を超え、合わせると80万人が緊急支援を必要としています。JPFは、ともに支援を行う現地団体との連携等の準備を整え、支援活動の開始を決定しました。加盟NGO47団体中、少なくとも6団体による合計1億円以上の大規模な事業を計画しています。



詳細はこちらから！



イラク・シリア人道危機対応支援

ジャパン・プラットフォーム

ジャパン・プラットフォーム（JPF）は、シリアの人道危機によって発生した国内避難民および周辺国に逃れた難民への支援や、イラク国内に大規模に発生した国内避難民に対する支援を開始しました。越冬支援等の緊急物資配布事業、飲料水の提供や衛生的な環境の整備等を行う水衛生事業等の命を守り繋ぐ支援事業を実施するとともに、長引く避難生活に適応するための心のケアの提供や、中断してしまった子どもたちの教育にも力を入れています。



詳細はこちらから！



パレスチナ子どものキャンペーン マンスリーサポーター

パレスチナ子どものキャンペーン

難民の子どもたちが健やかに大人になれるよう、中東に平和が実現するよう、パレスチナやレバノンなどで現地の人ともに考え、様々な支援活動(保険医療支援,教育支援)を行なっています。中東で起きていることは、決して遠い世界のものではありません。わたしたちにも出来ることがたくさんあります。あなたに合った方法で、一緒に子どもたちの“現在”と“未来”を支えてください。



詳細はこちらから！



ミャンマー・女性の収入向上と自立支援を目指して

ブリッジエシアジャパン

女性向けの裁縫訓練活動を20年に渡って実施してきました。識字教育や保健衛生の教育も合わせて、女性の生計向上を主な目的として活動していましたが、学びの場を通じた民族融和と平和的共存も目標の一つとして掲げてきました。しかし、2017年8月のイスラム過激派の襲撃事件以降、治安は悪化してしまいました。状況が落ち着いたところに、本寄付金を元手に小規模からでも活動を再開できればと考えています。



詳細はこちらから！



シリア内戦の被災者に対する人道支援

日本国際民間協力会 (NICCO)

NICCOは2012年11月よりシリア難民に対して、厳しい冬を越えるための防寒具等の緊急支援物資や子どもたちの教育に必要な備品を配布してきました。また、心のケア専門家が発案したプログラムに基づく心理社会的ワークショップ、インフォーマルな英語教育、通院可能な患者へのカウンセリングなどの医療サービスの提供など、心理社会的ケアワークショップを通して、主に子どもと女性がトラウマと向き合い、PTSDを予防することを目指します。



詳細はこちらから！



困窮するシリア難民へ、支援物資配布にご協力を

日本国際民間協力会 (NICCO)

ヨルダンでは、総人口の10分の1に当たる約64万人のシリア難民が避難しています。約11万人がキャンプに暮らしていますが、その数は砂漠に建設された難民キャンプの収容能力をはるかに超えており、約84%に当たる約53万人はヨルダンの街や村で非常に厳しい避難生活をおくっています。私たちは新規避難民や支援が滞っている層を優先して、ヨルダンのザルカ県に暮らすシリア難民200世帯へ支援物資配布を行いたいと思っています。



詳細はこちらから！



タイ・ミャンマー国境の難民キャンプの図書館を続けたい！

シャンティ国際ボランティア会

タイ・ミャンマー国境に点在し、今も93,000人が暮らす難民キャンプで、2000年から図書館を運営してきました。図書館は本の貸し借りだけでなく、青年ボランティアの活動の場であり、ミャンマー国内や外の世界の情報を伝える情報センターとしての役割も担っています。母国への帰還の決断が難しく、国際社会からの支援が年々減少する中、図書館は難民キャンプの人々にとって心が安らぐ場であり、唯一の「世界と繋がる場」となっています。



詳細はこちらから！



地球の友と歩む会 基盤強化プロジェクト

地球の友と歩む会 (LIFE)

「水・緑・人で国際協力」をキーワードに、インド・インドネシアで国際協力活動に取り組むNGOです。植林・農業による村づくり、女性の自助努力グループ支援、インド農村部の青年を対象にした高等教育奨学金支援活動を行っています。資金的・技術的な協力のほか、海外スタディツアーやワークキャンプを実施し、交流・学び合いの機会を持っています。



詳細はこちらから！



モンゴルの貧困家庭出身の子どもたちにご支援を！

ピースウィンズ・ジャパン

モンゴルでは急速な市場経済化により、経営合理化が加速。大規模なリストラなどによる失業者の増加による貧困が深刻化しました。政治や経済の安定とともにこうした子どもたちの数は減ってきましたが、今なお家庭に戻れない子どもたちは児童保護施設での生活を続けています。3,000円あれば、児童保護施設で生活する子ども1人の約10日相当の生活費をまかなうことができます。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



ラオスの不発弾を処理し、人々の安全な暮らしを広げるために

日本地雷処理を支援する会 (JMAS)

ラオスでは、ベトナム戦争中に約8千万発の爆弾が投下され、多くの不発弾により毎年200名近くの犠牲者が出ています。ラオスの不発弾処理機関である『UXO Lao』が不発弾処理に取り組んでいますが、処理技術は未熟で、処理速度も遅く、処理が終わるには100年以上かかるといわれています。安全で迅速な処理を進めるため、ご支援をよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



アフガニスタン・ぶどうプロジェクト

CODE 海外災害援助市民センター

アフガニスタン・ぶどうプロジェクトは、同国首都カブールの北方にあるミール・バチャ・コットの4つの村の世帯を対象に始まりました。従来アフガニスタン有数のぶどうの産地として有名なところでしたが、タリバンと北部同盟の最後の激戦地となり、タリバンは住家を破壊しただけでなく、生活の糧であるぶどう畑も焼き討ちにしてしまったのです。より多くの農家が基金を利用して生計手段を向上できるよう、ご支援をよろしくお願いいたします。



詳細はこちらから！



コロナ禍におけるインド妊産婦食糧支援の延長決定！

アムダ (AMD A)

インド東部ビハール州ブッダガヤにあるAMD Aピースクリニック (APC) は2014年よりブッダガヤに住む妊産婦のお母さんたちへの支援活動を行っています。感染症蔓延と都市封鎖により、家族が仕事を失い、収入が安定しない状況の中、食糧（野菜、お米、小麦）の価格が高騰し始めました。日々の食糧を手に入れるのが経済的理由により難しい、という話を聞いた現地スタッフと相談し、6月より妊産婦を対象とした食



詳細はこちらから！



【新型コロナウイルス】貧困・紛争下の人々へ緊急の衛生支援を！

ケア・インターナショナル ジャパン

世界中での感染拡大が懸念される新型コロナウイルス (COVID-19) は、今、途上国や紛争地域でも、確実に拡がりを見せています。CAREは、女性や女子、そして難民など、最も弱い立場におかれた人々への必要な支援がより困難になる前に、これまでのエボラ出血熱や重症急性呼吸器症候群 (SARS)、コレラなどの感染症への対応経験を活かし、必要な緊急支援を届けます。



詳細はこちらから！



新型コロナウイルス対応 難民の命を守る「緊急食糧支援募金」

パレスチナ子どものキャンペーン

レバノンの経済危機と新型コロナウイルス感染拡大の影響で、更に厳しい食糧難に見舞われているパレスチナ難民・パレスチナ人シリア難民2000世帯への緊急食糧支援現地にとどまっている当会の駐在員たちが、現地提携団体とラマダン（断食月）も始まった4月下旬から特に脆弱なパレスチナシリア難民とパレスチナ難民、合計2,000世帯に緊急食糧支援として食糧配布を行います。



詳細はこちらから！



あなたのご支援で世界の人々に笑顔をおくりませんか？

日本国際ボランティアセンター (JVC)

一人ひとりの力は小さくても、集まれば大きな変化を起こせる。市民の力で世界を変えていきたい。その思いを胸に、JVCは活動しています。JVCの特徴は「主役はそこに暮らす人々」「問題の根本にこだわる」「現地の声を政府と社会へ届ける」の3つです。ご支援の役立て方は、JVCが支援活動を行っていくための資金全般に使わせていただきます。



詳細はこちらから！



ミャンマー最貧地域チン州で持続可能な農業体制を作りたい

地球市民の会

チン州の中でもインド国境に近くに位置するライレンピー町において、換金作物であるコーヒー栽培を広め、販路を構築します。国際的な認証も取得し、住民が継続的に質の良いコーヒーを販売できるようにします。



詳細はこちらから！



「世界最悪の人道危機」イエメン紛争下の子どもへの栄養改善及び保護活動

アイキャン

「世界最悪の人道危機」と言われているイエメン共和国において、栄養不良の子どもたちに栄養価の高い食糧を提供することで、子どもたちの命をつなぎます。また、イエメンを逃れ、対岸のジブチ共和国に難民として暮らす子どもたちに対して保護活動を行ない、安全・安心に過ごせるよう環境を整えます。寄付により、500円で子ども1人分の1ヶ月分の栄養補助食品を配布できます。



詳細はこちらから！



モザンビーク共和国・平和教育?音楽「平和に生きる権利」プロジェクト

モザンビークのいのちをつなぐ会

イスラム過激派と見られるテロ攻撃が頻発する、モザンビーク共和国カーデルガド州にて、初となる「平和教育プロジェクト」を実施することで、テロ攻撃の被害者・加害者を出さないようにする取り組みを進めています。人類の普遍的命題である「平和」意識の重要性を世界に向けて発信することで、見過ごされがちな貧困地における「危機」を先進国の人たちに知ってもらい、脆弱な地域、人々への支援の輪を広げていきます。



詳細はこちらから！



スリランカ・生活再建支援

ピースウィンズ・ジャパン

スリランカの内戦を逃れた国内避難民 (IDP) が内戦終結後のDPキャンプでの暮らしを始めた2009年、食糧支援や帰還先での仮設住宅建設などの緊急支援を開始しました。その後、生計工場支援を通じた元DPの再定住を促進するための復興支援へと事業内容を移行しています。住む場所だけでなく生活手段が確保されなければ、生活再建は困難です。生活再建を目指す地域の人びとが、農業や酪農業で暮らしを立てていくための支援を行います。



詳細はこちらから！



バングラデシュの農村地域に『最高の授業』を届ける！

e-Education

私たちがバングラデシュで提供する教育支援事業では、高校生の進学を応援するのみならず、進学した大学生をコーディネーターとして採用し、地元の後輩学生に指導する機会を提供することで、社会の課題を解決するリーダーの育成に寄与します。地域の課題を実体験をもって理解している若手リーダーが育つことにより、教育格差や貧富格差の是正を目的とした活動も活性化し、民主的な組合の取り組みが全国に広がるのが期待されます。



詳細はこちらから！



ハンガー・フリー・ワールド 基盤強化プロジェクト

ハンガー・フリー・ワールド

世界では十分な食料が生産されているのに、9人に1人が「慢性的な栄養不足」＝「飢餓」に苦しんでいます。ハンガー・フリー・ワールドは、地域の課題に住民たちが中心となって取り組む地域開発、政策提言などのアドボカシー、飢餓の解決のために自ら行動するよう呼びかける啓発活動、次世代を担う青少年が飢餓の解決のために力を発揮することをサポートする青少年育成の4つの活動を実施しています。組織基盤強化のためにご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



過酷な児童労働からの解放へ！バングラデシュの少女たちに教育を。

シャブナール＝市民による海外協力の会

ダッカ市内に3つの支援センターを設け、基本的な読み書きや保健衛生、家事の技術トレーニング、生活改善に必要な知識の習得等を支援しています。さらに法制度に沿い、14歳未満の少女は学校へ編入できること、14歳以上の少女は家事使用人以外の仕事ができるような技術を身につけるようになることを目指しています。また、雇い主や地域住民、自治会等への意識啓発を行い行動変化を促し意識をかえることで、働く子どもがいない社会を目指しています。



詳細はこちらから！



中古の英語の本を南アの子どもたちへ送ろう！

アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国には10以上の民族語があるため、英語が共通語として使われ、地方の学校でも小学校4年生から英語で授業が行われます。しかし、貧しい地方では家庭にも学校にも読書をする本がなく、十分な英語力を身に付けることができず、授業についていけなくなる子どもたちが沢山います。そのため、中古の英語の本を集め、南アの地方の学校に送り、学校図書室を作っています。皆様のご支援をお待ちしております。



詳細はこちらから！



カンボジアの子ども達に教育と健康を！

グッドネーバース・ジャパン

カンボジアのベンモン地域において、子どもの教育支援と保健衛生を中心とした地域開発を実施しています。保護者には教育の重要性を理解してもらうよう働きかけたり、栄養不良の多い地域の子ども達に栄養たっぷりの給食を提供するほか、伝染病予防のための蚊帳配布や浄水器の支給・衛生教育等で、子ども達の生活環境の向上を図っています。募金はこのような学用品・医薬品の準備など、子ども達の教育・健康をサポートする活動に使われます。



詳細はこちらから！



【ラオス】の貧しく中学に通えない子どもたちに、教育の機会を！

国際センター

顔の見える支援「ダルニー奨学金」制度を通して、世界最貧国の一つといわれるラオスの子どもたちに教育の機会を！経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する、国際教育里親システムです。ラオスでも最も必要性の高い中学生教育を支援するという方針から、中学校1年生から4年生までの4年間を支援します。年14,400円（1ヶ月あたり1,200円）あれば、1人の子どもが1年間中学校に通うことができます。



詳細はこちらから！



【タイ】の貧しく中学に通えない子どもたちに、教育の機会を！

国際センター

顔の見える支援「ダルニー奨学金」制度を通して、経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する、国際教育里親システムです。タイの子どもたちに教育の機会を！経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する、国際教育里親システムです。「タイのダルニー奨学金」は中学校1年生から3年生までの3年間を支援します。年14,400円（1ヶ月あたり1,200円）あれば、1人の子どもが1年間中学校に通うことができます。



詳細はこちらから！



ベナンでの子どもの栄養改善プロジェクト

ハンガー・フリー・ワールド

3歳未満の栄養不良児156名とその家族を対象とした栄養改善事業を開始しました。週に3回、ワークショップを実施し、栄養不良と診断された3歳未満児に、栄養たっぷりのおやつを提供。また、調理法や野菜の栽培法、家計の管理法、読み書きの知識を母親や父親に伝えることで、将来的に家族全体の健康を保つことができるようになります。さらに生活全体の改善も期待できます。また、行政と住民が協力して子どもの栄養改善に取り組む仕組みができます。



詳細はこちらから！



封鎖が続くガザ地区で保健医療支援と教育支援

パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナ・ガザ地区では、種子島ほどの面積に約200万人が住み、半数は14歳以下の子ども、70%は難民となった人々です。日常的に深刻な水問題、50%以上の高い失業率、医薬品の不足などがあり、子どもやその家族が希望を失わないように、私たちは現地の状況やニーズにあわせ、ろう学校の設立、農業、教育、医療保健など様々な分野で支援活動を続けています。あなたに合った方法で、一緒に子どもたちの"現在"と"未来"を支えてください。



詳細はこちらから！



「ぐりとぐら」のズルー語絵本を南アの子どもに届けよう！

アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカのクワズールーナタール州の多くの家庭ではズルー語を話しています。英語で授業が始まる前の低学年の子どもたちには母語のズルー語の絵本が必要です。そのため、日本語の「ぐりとぐら」と「そらいろのたね」を購入してそれにズルー語の訳をつけて、小学校に送っています。1,000円あれば、新品の「ぐりとぐら」か「そらいろのたね」にズルー語のラベルを貼って、学校に届けることができます。



詳細はこちらから！



フィリピン・マニラの路上の子どもの未来を作るプロジェクト

アイキャン

最近では、近代的な高層ビルやリゾートのイメージもあるフィリピンですが、その一方で経済格差が広がり、「フィリピンの路上の子どもたち」が急速に増加し、現在では25万人以上に及ぶと言われていています。中には出生登録すらもされていないという子も存在します。1994年に設立されたアイキャンでは、過去25年のフィリピンでの活動実績をベースとして、首都マニラの路上で生活をする子どもたちの「子ども保護事業」を実施しています。



詳細はこちらから！



イエメン人道危機対応支援

ジャパン・プラットフォーム

現在イエメンでは、約220万人の子どもが急性栄養失調で緊急ケアを必要としており、うち少なくとも46万2000人が重度の急性栄養失調（SAM）状態にあります。JPFは、2015年10月より「イエメン人道危機対応」プログラムを立ち上げ、紛争の影響により困難な生活を余儀なくされている人たちに食糧・食糧パッケージの配付、安全な水の提供、極端な栄養不良の子ども達への治療などの最も必要とされる支援を届けていきたいと思います。



詳細はこちらから！



【ミャンマー】スラムで働くソーシャルワーカーに日本での研修の機会を！

PHD協会

当会は「平和と健康を担う人づくり」を目指し、アジアの青少年を日本に招き、研修事業を実施しています。2021年度には、ミャンマー中部の都市マンダレーにあるスラム・バター地区で子ども支援に携わるソーシャルワーカーを招聘し、教育と保健衛生（感染症対策、応急処置）の研修を実施します。また帰国後は現地で活動を継続できるよう、フォローアップ事業を行います。



詳細はこちらから！



子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト

チャイルド・ファンド・ジャパン

大地震により、シンドゥパルチョーク郡の学校の校舎の多くは倒壊してしまいました。私たちは子どもたちが勉強を続けられるよう仮設教室を建設しましたが、仮設教室はあくまで「仮設」のもので。校舎の新しい耐震基準を満たすため、安心して勉強できる頑丈な校舎をつくり、子どもたちが勉強に集中できる学習環境を整えます。教師、学校運営委員会、PTAが協力して教育の質を向上できるように支援していきたく考えています。



詳細はこちらから！



ブルキナファソでの食料と栄養の安全保障プロジェクト

ハンガー・フリー・ワールド

乳幼児や妊産婦のいる特に貧しい世帯では、1日3回食事がとれないと回答した家庭が多く、7割近い家庭では肉や魚などが週に1度未満しか食べられていません。また、子どもの食事における栄養の重要性についての住民の理解が不十分であることが判明しました。そこで、私たちは家庭で乳幼児に対する適切な食事を提供できるよう、母親向けの栄養教室を開催しています。また、対象世帯のほとんどが農業で生計を立てているため、農業研修も実施しています。



詳細はこちらから！



カンボジアのお父さん・お母さんに識字教育の機会を！

JHP・学校をつくる会

就学年齢時に十分な教育を受けられず、未だカンボジアの識字率は低い現状です。商売で騙されてしまったり、貧困から脱出できずにいる人々が多くいます。識字教育を受けていないことへの影響は、時に子どもたちへ及びます。家庭でお父さん、お母さんが読み書き・計算ができ、教育の大切さを理解することは、子どもたちが学校で学ぶ時に、大きな後押しとなるため、成人が「識字教育」を受けられる機会を設けていくことが必要です。



詳細はこちらから！



教育の格差が広がる【ベトナム】の貧しく中学に通えない子どもたちに、教育の機会を！

国際センター

顔の見える支援「ダルニー奨学金」制度を通して、ベトナムの子どもたちに教育の機会を！
ダルニー奨学金制度とは、経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する、国際教育里親システムです。中学校入学から卒業までを支援します。今までに、約413,600人以上の子どもたちの中学就学が実現しています。



詳細はこちらから！



タイの青少年にリーダーシップ育成とビジネス起業体験を！

ケア・インターナショナル ジャパン

タイ政府は、高校進学で職業教育課程に進む生徒数の増加を促進するとともに、中学・高校における職業活動を推進しています。一方で、多くの学校では、予算や教員の持つ知識や経験の不足から、実現が困難な状況です。とりわけ、カンボジア等からの移民の子どもたちは厳しい学習環境にあり、将来的に貧困に陥りやすいと言われています。社会人としてリーダーシップやマーケティングスキル、そしてライフスキルなどを身につける機会が求められています。



詳細はこちらから！



学習教材を通じて東ティモールの人々に生きるチカラを！

ケア・インターナショナル ジャパン

私たちは、東ティモールの農村部、とくに貧しく識字能力の低い世帯に向けて、現地語「テトゥン語」による学習雑誌「ラファエック」を作成・配布し、子どもたちの教育や発育、健康管理についての知識と能力の習得、また小規模ビジネス、農業、健康、識字と計算の4分野の知識を身に付けることを目指します。また、この雑誌を利用した住民参加のワークショップを中心とした活動も展開したいと思っています。



詳細はこちらから！



ケニアの貧困地域で、未来を切り拓くカウンセリング

エイズ孤児支援NGO・PLAS

ケニア共和国ホマベイ郡は、孤児や貧困家庭が多く暮らす地域です。孤児や貧困下にある子どもたちには、進路に関する情報が限られているため、どのように将来の計画を立てていけばよいか十分な指導が得られないまま、学校教育から離脱していきま。保護者も子どもの成長や発達、進路に関する知識や情報を持っていないため、必要なたらきかけができません。NPOと協力して「アクティブ・ラーニング手法」を用いたカウ



詳細はこちらから！



【カンボジア】の貧しく中学に通えない子どもたちに、教育の機会を！

国際センター

顔の見える支援「ダルニー奨学金」制度を通して、カンボジアの子どもたちに教育の機会を！ダルニー奨学金制度とは、経済的貧困で中学生教育を受けられない子どもたちを支援する、国際教育里親システムです。中学校入学から卒業までを支援します。成績の如何にかかわらず、より貧しい子どもを選考し、提供いただいた資金が確実に奨学生に届き、かつその生徒の教育のために使われるシステムが確立されておりま。



詳細はこちらから！



中古のサッカーボールを南アの子どもたちへ送ろう！

アジア・アフリカと共に歩む会

日本で中古のサッカーボールを集めて、南アフリカ共和国の貧困地域の学校に配布しています。勉強は苦手でも、「学校にいれば本物のボールでサッカーができる」との思いで、ドロップアウトせずに、片道1時間や2時間かけて通学する子がたくさんいます。犯罪やドラッグに巻き込まれやすい厳しい環境でも、ボール一つあれば、休み時間や放課後に、大勢の子供たちが健康で楽しく過ごせます。



詳細はこちらから！



ミャンマーの最貧地域に教育の光を〜子供たちの明日をつくる学校建設〜

地球市民の会

ミャンマー連邦共和国、テン州に学校を建設します。急峻な山々が連なり、大自然のなかにあるテン州は、政府や外国からの支援も届きにくく、ミャンマーでもっとも貧しい地域と言われています。インフラ整備が遅れ、学習環境の整備は後回しにされています。しかし、地域社会の発展を考えると、教育というのはとても重要な役割を果たします。より多くの子供たちがより良い学習環境で教育を受けられることを目指します。



詳細はこちらから！



アフガニスタンの女の子たちが自己表現できる「子ども図書館」の運営支援

シャンティ国際ボランティア会

この事業の対象地域であるジャララバード市には少なくとも1万人の子どもが貧困のため小学校に通っていません。また、子どもたちが自由に有意義に余暇や時間を過ごすことができる施設は限られています。シャンティ国際ボランティア会は、「子ども図書館」を運営し、小学生児童を対象に図書館活動、文化活動などを行っています。「子ども図書館」は、女の子が自由に遊び、学び、自分を表現できる居場所となっています。応援よろしくお願いたします。



詳細はこちらから！



【コロナ緊急支援】国内外で感染拡大を防止し
命を守る

難民を助ける会 (AAR Japan)

新型コロナウイルス感染症の流行が世界規模で拡大する中、AAR Japan【難民を助ける会】は、3月から緊急支援を行っています。国内では、障がい関連団体と連携しながら、障がいのある方々と周りで支える福祉従事者へ、マスク・衛生用品を届けます。海外では、医療体制が脆弱な国で、感染予防のために手洗い方法を伝えたり、消毒液などの衛生用品、食料を配ります。また、難民の方へ情報提供や電話相談対応、経済的サポートを行います。



詳細はこちらから！



ベトナムへ歯科技工支援～健康な歯で快適な食生活と円滑な会話を～

公益財団法人 国際医療技術財団

世界には歯の不具合により食生活や日常会話を満足にすることができないという大きな問題があります。日本の高度な歯科技工技術の普及により健康な食生活と円滑な会話を楽しみ、誰もが生きがいを感じられる元気な社会を迎えることができる、そんな世の中を国際医療技術財団 JIMTEFは目指します。そのために、ベトナム国立中央歯顎顔病院で歯科技工技術者養成コースの設置や特別講演などを考えています。



詳細はこちらから！



カンボジアの貧しい人々に医療を届けます

ジャパンハート

当団体の病院は、病棟を増設し「ジャパンハートこども医療センター」として新たにスタートしました。現地駐在の日本人医療スタッフおよび日本からのボランティア医療者を受け入れ、診察や、手術などの適切な医療活動を無料で提供し、地域住民が困った時に安心して訪ねてくることを目指します。また、カンボジア人医療者の人材育成を行い、当病院だけではなく同敷地内の現地病院も同様に地域住民から信頼される病院となることも目指しています。



詳細はこちらから！



ミャンマー：人生を変える学校を支えてください
障がい者のための職業訓練校への支援

難民を助ける会 (AAR Japan)

AAR Japan【難民を助ける会】では、2000年からミャンマーの最大都市ヤンゴンで、障がい者のための職業訓練校を運営しています。授業に加えて、職場訪問や面接への同行といった就職支援、就職後の面談、技術の学び直しといった体制も整えており、こうした民間の学校は、ミャンマーではほかにありません。AARの財政は常に厳しい状況ですが、私たちは「絶対にこの活動をやめるわけにはいかない」と強く思っています。ご協力をお願いします。



詳細はこちらから！



日本の民族医学である柔道整復術でベトナムの
外傷患者を救いたい！

公益財団法人 国際医療技術財団

手術を必要としない外傷治療技術（保存療法）が乏しいために苦しんでいるベトナムで保健医療サービスを向上させることを目標とする柔道整復術普及活動です。ベトナムの伝統医学医師を日本の柔道整復術施設所と整形外科医療機関で研修させたり日本の柔道整復師をベトナムへ派遣して現地の伝統医療病院へ技術移転してベトナム全国へ日本の民族医学である柔道整復術を普及していきます。



詳細はこちらから！



インドの無医村に設立された病院を守り、幼き
生命を守ろう。

アジア協会アジア友の会

インド、マハラシュトラ州ガッチャロリ県ダンノラ地区ムスカ村周辺には、これまで病院がなく、約8,300人の村人は、医療サービスの提供をなかなか受けられずにいました。その結果、医療知識のない村の靈媒師が医療行為を行い、命を落としたり、早期治療をしなかったため風邪や発熱などの病気をこじらせて、村の女性や子どもたちの貴重な生命が奪われたりしてきました。私たちは病院を設立し、この病院の維持をしていきたいと考えています。



詳細はこちらから！



北インド貧困地域への医療支援プロジェクト

インド福祉村協会

北インドの農村部（ウッタルプラディシュ州クシナガラ県）にアーナンダ病院という小規模な病院を建設し、医療に恵まれない人々を対象とした医療活動と保健衛生活動を行っています。アーナンダ病院では、現地医師1名と12名の現地スタッフで無料または定額での診療や保険衛生活動を行っており、そのための活動資金はすべて寄付金でまかなっています。



詳細はこちらから！



【新型コロナウイルス感染症緊急支援】手洗いで大切な命を守る！ウォーターエイドの緊急支援にご協力ください

ウォーターエイドジャパン

長年、水・衛生専門の国際NGOとして活動してきたウォーターエイドは、新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の拡大を防止するための緊急対応を3月から開始。アジア、アフリカ、太平洋地域、中南米にあるウォーターエイドの活動国（26か国）で、手洗い等衛生習慣の促進、そして手洗いに必要な水の供給・確保に取り組んでいます。



詳細はこちらから！



カンボジアの生活環境改善のための井戸設置プロジェクト

日本地雷処理を支援する会（JMAS）

地雷が多い地域では、社会及び経済の発展が阻害されており、水道は普及していません。多くの女性や子供たちがこのため、毎日大変辛い水汲みの労働に従事し、遠いところでは何キロも歩いて水を運んでいます。また飲み水の衛生状態も決して良いとは言えないのが現状です。地雷処理を終えた土地に井戸を設置することにより女性や子供たちから水汲みの重労働をなくし、また、安全な生活水により病気になる危険性を軽減することができます。



詳細はこちらから！



水に関する支援をはじめとするPWJの活動全般

ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）はこれまでも世界各地でさまざまな活動を続けてきましたが、ピースウォーター・プロジェクト「すべての人に水を」を掲げて、水に関する取り組みをはじめとした支援に力を入れています。みなさまからいただいた寄付は、このような水関連の支援をはじめとする世界各地での緊急人道支援、復興開発支援に活用させていただきます



詳細はこちらから！



パレスチナ・ガザ地区の農家と子どもたちに「安全な水」を

日本国際民間協力会（NICCO）

東京23区の約半分という場所に、約150万人が暮らしています。イスラエル軍からの攻撃を幾度となく受けているガザ地区に住む住民たちは、「2014年夏の戦闘が今までの攻撃の中で、特に長く尾を引いている」と口にします。水の問題に関しては、地下水の汲み上げ過ぎによる水不足や塩水化、地下水の汚染が状況を悪化させています。そのため、私たちは下水処理施設の建設や小学校への脱塩処理施設の設置をしていきたいと思っています。



詳細はこちらから！



南スーダン帰還民支援

ピースウィンズ・ジャパン

南スーダンでは2011年にスーダンから分離独立した今も、内戦で村の社会基盤を完全に破壊された影響から、難民・避難民の帰還が遅れがちになっています。PWJが2006年から継続的に建設してきた井戸は200本を超え、帰還民が多いアヨッド郡ジェッチ村では、学校・保健所・トイレも建設しました。今後も南スーダンの水不足や病気の蔓延が懸念される避難民キャンプで支援活動をして予定で。



詳細はこちらから！



世界遺産キリマンジャロ『みつばちの森』プロジェクト

タンザニア・ボレボレクラブ

世界遺産キリマンジャロ。しかしその山の自然が森林減少によって蝕まれています。一方、山に暮らしている村人、とりわけ若者たちは、落ち込む山村経済のため次々と村を去っています。当会はキリマンジャロ山に多く生息するミツバチに注目し、「養蜂」という新たな産業による山村経済の立て直しを目指しています。同時に失われた森林を回復し優れたミツバチの生息環境を整えるため、蜜源樹の植林による『みつばちの森』づくりに取り組んでいます。



詳細はこちらから！



世界遺産キリマンジャロ・“命の森”を人々の手に！

タンザニア・ボレボレクラブ

世界遺産キリマンジャロでは、その森を守るためとして、山麓住民が利用してきた生活の森への国立公園の拡大が行われました。拡大された国立公園には武装レンジャーが配置され、武器と暴力による住民の徹底排除が行われています。世界遺産の山で行われているこのような重大な人権、生活権の侵害行為をやめさせ、人々が平和に安心して暮らせる環境を取り戻すとともに、地域住民が主体となって森を守っていく新たな森林管理の実現を目指します。



詳細はこちらから！



ウミガメ保護島のオーナーになっちゃおう！

エバーラスティング・ネイチャー

ジャワ海最大のタイマイの産卵地であるセガマ・プサル島において、1997年から卵の保護活動を行っています。保護プロジェクトを継続的に行うために、セガマ・プサル島の1区間オーナーを募集しています。毎月1000円以上でお申込みいただいた方は、ご寄付された翌月から1年間、38区間あるセガマ・プサル島内の1区間のオーナーとして登録されます。いただいたご寄付は、本活動のために活用させていただきます。



詳細はこちらから！



オランウータンの森 再生プロジェクト in インドネシア

more trees

インドネシアでは、これまで度重なる伐採や森林火災によって熱帯雨林が減少し、貴重な生態系が失われています。地域住民と植林活動を実施することで豊かな熱帯雨林をよみがえらせ、多くの野生動物の棲み処を守ります。また火災の発生に備え、貯水池や防火帯などのインフラを整備することで、延焼防止にも努めます。熱帯雨林と野生動物を取り巻く現状を知ってもらおうべく現地ツアーを実施し、より多くの方に関心を持ってもらうきっかけを創出します。



詳細はこちらから！



コーヒーの森－生活と環境を守る森林栽培 (フィリピン)

WE21ジャパン

“森林再生と緑化”“災害に強い地域づくりと水源の確保”生活の向上”を目的に活動しております。目指す成果として、生活と環境の回復、自然と共生する先住民の人びとの尊厳の回復です。ご支援どうぞよろしくお願いたします。



詳細はこちらから！



ベンガルトラを救え！緊急支援

トラ・ゾウ保護基金

【トラとのトラブル・密猟防止パトロール活動を行うレンジャーに、パトロール用装備を】野生生物犯罪捜査、インドの野生生物法、生態学的モニタリング、動物救護活動技術などのトピックに焦点をあてたトレーニングワークショップを開催し効果的なパトロールの仕方を伝え、また地域住民には、トラと出会ったときの正しい対処の仕方やトラの生態などワークショップで伝えていきます



詳細はこちらから！



ベトナムの子どもたちに環境教育を！

ブリッジ エンジア ジャパン

ベトナム・フエ市の地域の子どもたちを対象に無償の学習塾や奨学金などの活動を進め河川の清掃やごみの分別活動を進めてきました。現在も貧困家庭の児童への奨学金支給や環境教育活動を進めています。子ども達が環境に関する知識が楽しく学べるような授業を、日本人ボランティアの方たちの助言もいただきながら、つくっています。本寄附金はフエ市の小学校や中学校における環境教育授業や奨学金に活用いたします。



詳細はこちらから！



メコン河流域の環境問題を伝える映像制作

メコン・ウォッチ

メコン河は中国、ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムの6カ国を流れる東南アジアの国際河川です。この地域では急激な経済発展が進む一方、豊かだった自然は失われつつあり、その自然に依存する農村部の人たちの暮らしにも、様々な課題が生まれています。私たちは、メコン流域の独特の自然とそこで暮らす人々の声、そこで起きている環境問題を現地や日本の皆さんにより深く知っていただくため、映像を制作しています。



詳細はこちらから！



Bangladeshでの持続可能な生活センターの能力強化プロジェクト

ハンガー・フリー・ワールド

Bangladeshでは1960年代、近代農法の導入により農業・化学肥料の使いすぎによる土壌劣化と病虫害、それを防ぐための農業・化学肥料の投入という悪循環が発生していました。そのため有機たい肥の作り方や多品種栽培の方法などの農業研修を実施します。また、農業に関する関連資料を置いて住民がいつでも閲覧できるように情報を提供。地元産品の販売も促します。また、生活センターに勤める人々の能力強化にも注力しています。



詳細はこちらから！



タンザニア・ボレボレクラブを応援！

タンザニア・ボレボレクラブ

タンザニア・ボレボレクラブは、森林減少の続く東アフリカのタンザニア・キリマンジャロ山麓で、人々が環境の荒廃を招くことなく平和に、安心して暮らしていくことのできる社会の実現を目指して設立された市民団体です。しかし、これらの活動のための資金が常に不足しています。当会がこれからも効果的な取り組みを実行し、継続していきけるよう、ぜひご支援、ご協力を賜れますようお願い申し上げます。



詳細はこちらから！



よみがえれ、キリマンジャロの森！

タンザニア・ボレボレクラブ

東アフリカのタンザニアでは、人口の増加とそれに伴う薪炭材消費の増大などにより、年率1.2%で森林が失われています。森林の減少は雨量の減少、作物の生産性低下などとなって現れ、人々の生活を脅かしています。世界遺産キリマンジャロ山に豊かな森を回復し、人々が長く安心して暮らせる環境を取り戻すため、当会は今後も山麓住民と力を合わせ、この植林に取り組んで参ります。1,000円で10本の苗木を植えることが出来ます！



詳細はこちらから！



フィリピン残留日本人2世国籍回復支援プロジェクト

フィリピン日系人リーガルサポートセンター

第二次大戦の最中、多くの人が戦争に巻き込まれたフィリピン。残されたフィリピン人妻と子供たちは、父の生死もわからぬままでした。父の身元を探そうとしても、戦争や経年劣化により公的書類は焼失したのも多く、父につながる証拠を破棄した人も多くいました。

私たちはフィリピンの日系人連合会と協力し、現地で2世の証言を聞き、身元判明のための調査を実施。弁護士に協力を頂き、就緒許可申立などによる日本国籍回復をサポートしています。



詳細はこちらから！



「差別や暴力のない世界を実現する」アムネスティ日本

アムネスティ・インターナショナル日本

命を守る。自由を守る。笑顔を守る。それがアムネスティ。アムネスティ・インターナショナルは、人間らしく生きる喜びを奪われた人々のために活動している、世界最大の人権NGOです。寄付は独自の調査活動、政策提言活動、キャンペーン・アクションの推進などにあてられます。



詳細はこちらから！



アジア・太平洋のチェンジメーカー（社会起業家）支援

Earth Company（アース・カンパニー）

途上国には、並外れた変革力を持つにもかかわらず、リソースが足りないために社会インパクトを拡大できなかったり、また外から支援が得られたとしても単発で画一的なものが多いために、事業への深いインパクトをもたらせているチェンジメーカーたちがたくさんいます。そんなチェンジメーカーたちを1年に1人選出し、その能力を最大限に発揮できるよう、一人ひとりのニーズにカスタマイズした「寄り添う支援」を3年間にわたって提供しています。



詳細はこちらから！



「ジェンダー平等を通じて貧困削減を目指す」ケア・インターナショナル ジャパン

ケア・インターナショナル ジャパン

アジアやアフリカにおいて、「女性や女子」に焦点をあてた活動を通して、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。CAREは、彼女たちが、教育や保健サービスを受ける機会、収入を得る手段、コミュニティへの参画機会を得られれば、本来の能力を発揮することができ、それが貧困解決への大きな第一歩となると考えています。ご寄付は、途上国において困難な状況に置かれている女性と女子の自立支援活動に使用させていただきます。



詳細はこちらから！



人権のために闘って投獄された人々を、新型コロナウイルスの危険から助けて！

アムネスティ・インターナショナル日本

不正に立ち向かう、勇気ある人々を守りたい人権を求めて立ち上がる。それは時に勇気が必要とする行いです。中には、信条や言論、肌の色、ジェンダーなどといった不当な理由で投獄されてしまう人もいて、現在約150人が囚われの身となっています。そんな彼らに今、新型コロナウイルス感染症という新たな危険が迫っています。一刻も早い釈放を実現するため、あなたの力を貸してください！



詳細はこちらから！



アジア太平洋の障害者活動にご支援を

DPI日本会議

国際機関が集まるタイに事務局を開設し、年間15件以上のセミナーやプログラムを行っています。日本からは財政的支援のほか「アジア障害者支援プロジェクト」として車いすやパーツをアジア各国に送っています。これらの支援を果たしてきましたが、財政難のため存続の危機に瀕しています。アジアの若手リーダー育成や、地域生活の確立、バリアフリーの推進、障害者権利条約の普及啓発などに取り組む、アジア太平洋の障害者活動へご協力をお願いします。



詳細はこちらから！





公益財団法人
パブリックリソース財団

〒104-0043

東京都中央区湊2-16-25-202

TEL : 03-5540-6256

FAX : 03-5504-1030